ARCHI TREND Z

リフォームエディション

外装リフォーム編

福井コンピュータアーキテクト株式会社

目 次

作成するプラン ____ 3

1 現況図の作成 ____ 4

1-1 サンプルデータの準備 ____ 4
- 物件データをエクスポートする ____ 4
- 物件圧縮ファイルを移動する ____ 5
- 現況図として取り込む ____ 5
- 物件名を変更する ____ 5

1-2 間取りの入力 ____ 6
- 玄関ポーチを入力する ____ 6
- ポーチの目地を抜く ____ 6
- 2 階の部屋・建具を入力する ____ 7
- 階段を描く ____ 7
- バルコニーを入力する ____ 8

1-3 屋根の入力 ____ 9
- 2 階の屋根を入力する ____ 9
- 立体を確認する ____ 10
- 1 階の庇を入力する ____ 10

1-4 敷地の入力 ____ 11
- 敷地を座標入力する ____ 11
- 道路を入力する ____ 13
- 画像を作成する ____ 13
- 作図範囲を設定する ____ 13
- データを保存する ____ 13

補足

三斜区画から敷地を入力するには ____ 12

2 計画図の作成 ____ 14

2-1 計画図データの作成 ____ 14
- 計画図を開く ____ 14
- 立体を確認する ____ 14

2-2 間取りの変更 ____ 15
- 部屋を拡張する ____ 15
- 屋根を入力する ____ 15

2-3 外装の変更 ____ 17
- 建具を入れ替える ____ 17
- 外壁を変更する ____ 18
- 屋根を葺き替える ____ 19
- パースから建具を変更する ____ 20
- パースから素材を変更する ____ 20
- 変更前と比較する ____ 21

3 パースの作成 ____ 22

3-1 外構の入力 ____ 22
- アプローチを入力する ____ 22
- エクステリア部品を入力する ____ 23
- データを保存する ____ 24

3-2 外観パースの作成 ____ 25
- 視点を設定する ____ 25
- 画像を作成する ____ 25
- パースモニタデータを保存する ____ 25

4 立面図の作成 ____ 26

4-1 立面図の作成 ____ 26
- 立面図を自動作成する ____ 26
- 他の面を作成する ____ 26

4-2 加筆修正 ____ 27
- 仕上仕様を入力する ____ 27
- データを保存する ____ 27

5 図面の印刷 ____ 28

5-1 プレゼンボードの作成 ____ 28
- 図枠・図面を配置する ____ 28
- 枠を部分移動する ____ 28
- パースを配置する ____ 29
- 2 面目を開く ____ 30
- 図枠・図面を配置する ____ 30
- 作図範囲外のデータを表示する ____ 31
- データを保存する ____ 31

補足

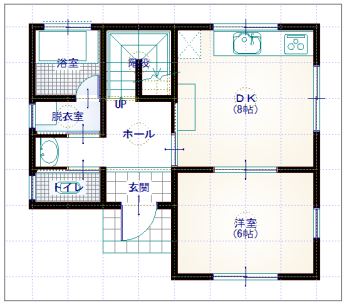
テクスチャ・設備のプレゼンボード ____ 32

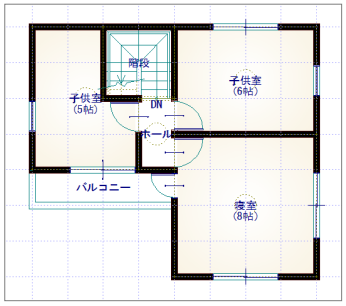
作成するプラン

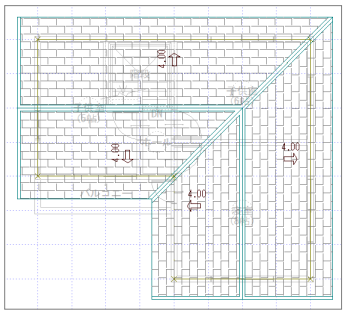
「外装リフォーム編」では、増築をともなう外装リフォームを例に、屋根や敷地、外構の入力、外観パース・立面図作成などの流れを解説します。

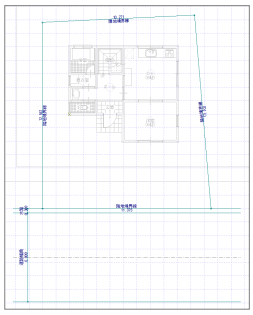
※ リフォームエディションのプログラム DVD の Manual フォルダに収録されている「V8ReformEdition.mgdz」に、解説用データ（2 階の部屋・建具を入力済）と完成データを収めていますので、ご活用ください（取り込み方法は「リフォーム入門編」P.69 を参照）。

現況図

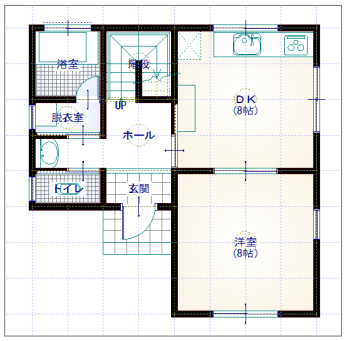


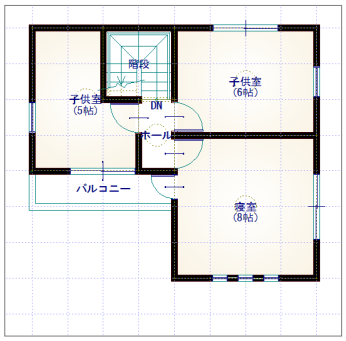


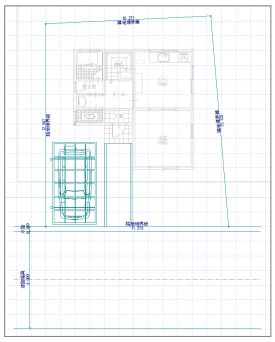


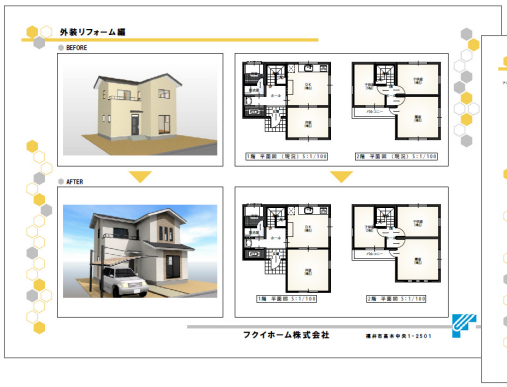


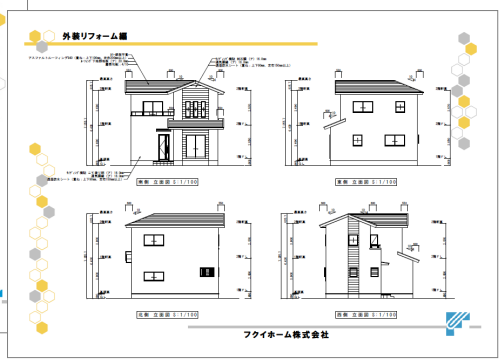
計画図











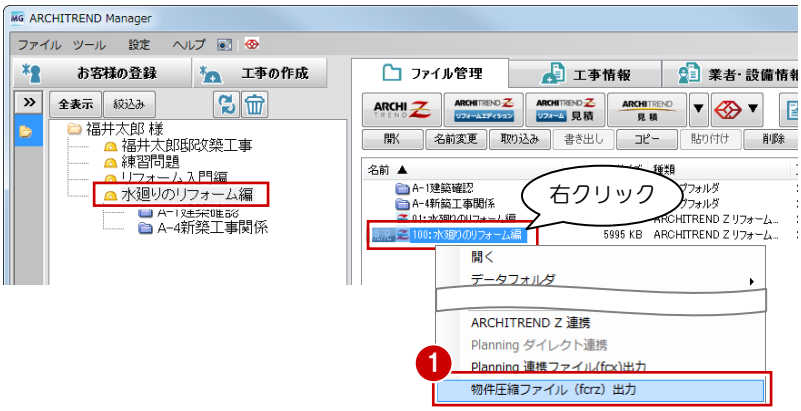
1 現況図の作成

「水廻りのリフォーム編」で入力したデータをコピーして使用しましょう。
「外装リフォーム編」では、1 階の間取りデータに玄関ポーチを追加し、2 階の間取りデータや屋根、敷地を入力してみましょう。

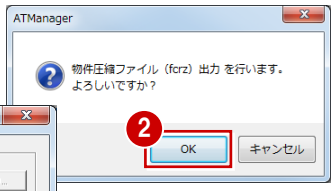
1-1 サンプルデータの準備

物件データをエクスポートする

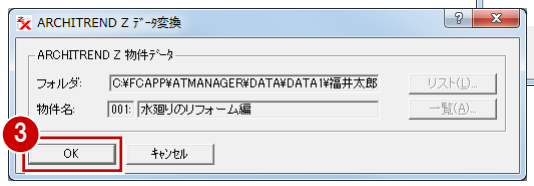
「水廻りのリフォーム編」で作成した現況図データを「外装リフォーム編」の現況図として使用するため、マネージャーで物件圧縮ファイルにエクスポートしましょう。



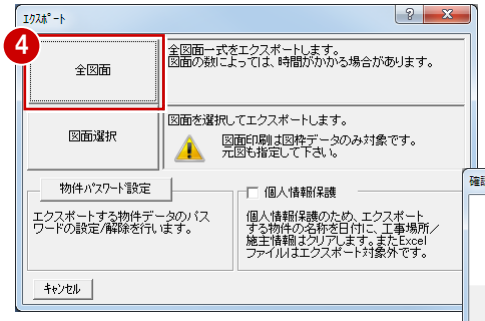
❶ マネージャーで「水廻りのリフォーム編」の現況図データを選び、ポップアップメニューから［物件圧縮ファイル（fcrz）出力］を選びます。



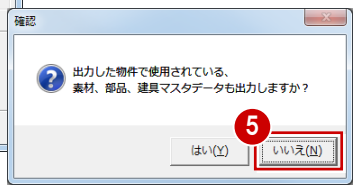
❷ 確認画面で［OK］をクリックします。



❸［ARCHITREND Z データ変換］ダイアログで［OK］をクリックします。

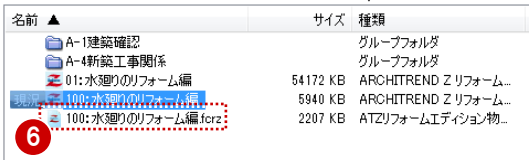


❹［エクスポート］ダイアログで［全図面］をクリックします。



❺ この物件で使用されている素材・部品・建具マスタのデータを出力するかどうかの確認画面が表示されます。
ここでは［いいえ］をクリックします。

⇒ マスタデータの出力については、「リフォーム入門編」P.66 参照



❻ 工事内に、物件圧縮ファイル（fcrz）が作成されたことを確認できます。

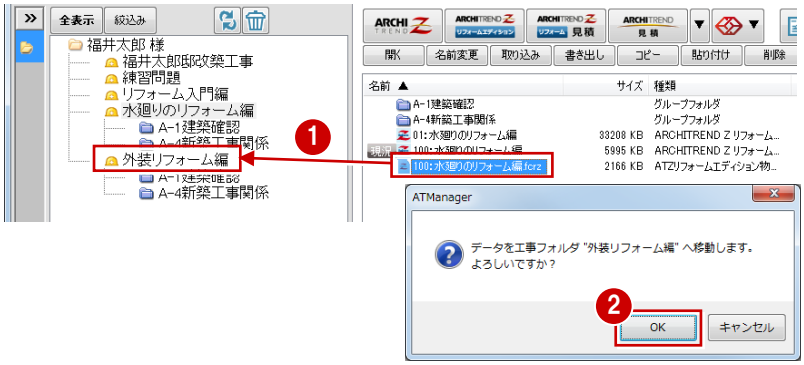
物件データのコピー・貼り付け

ここでは、物件圧縮ファイルにエクスポートし、現況図として取り込む方法を解説しましたが、［コピー］［貼り付け］を使用して物件データを複写することもできます。
その場合、現況図データをコピー・貼り付けしても、物件 No が 1 番（1 番が存在する場合は空いている上位 No）の計画図として複写されるため、ポップアップメニューの［名前の変更］で物件 No を 100 に変更してから［現況図へ登録/解除］を実行する必要があります。

物件圧縮ファイルを移動する

❶「外装リフォーム編」の工事を作成し、物件圧縮ファイル（fcrz）をドラッグ＆ドロップします。

❷ 確認画面で［OK］をクリックします。
物件圧縮ファイル（fcrz）が移動します。



現況図として取り込む

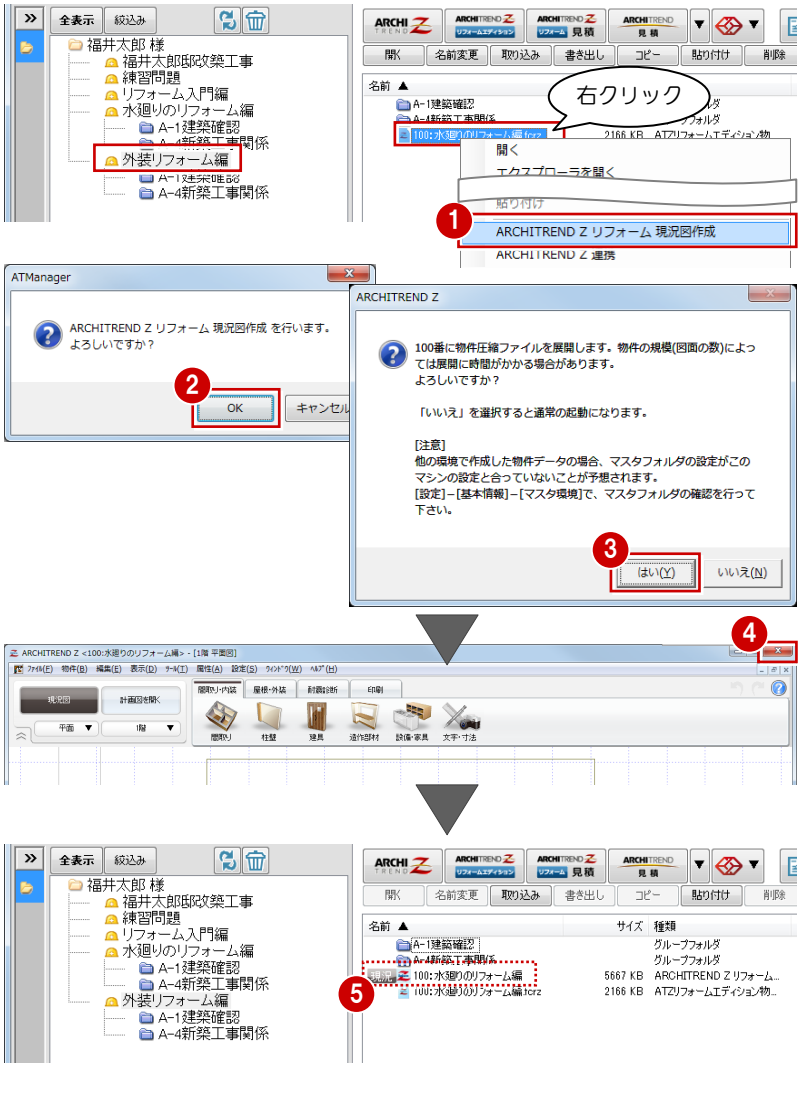
❶「外装リフォーム編」の工事で物件圧縮ファイル（fcrz）を選び、ポップアップメニューから［ARCHITREND Z リフォーム 現況図作成］を選びます。

❷ 確認画面で［OK］をクリックします。

❸「100 番に…」の確認画面で［はい］をクリックします。
物件圧縮ファイルが現況図として取り込まれて開きます。

❹ 一旦、［閉じる］をクリックしてマネージャーに戻ります。

❺ 工事内に、現況図データが作成されたことを確認できます。

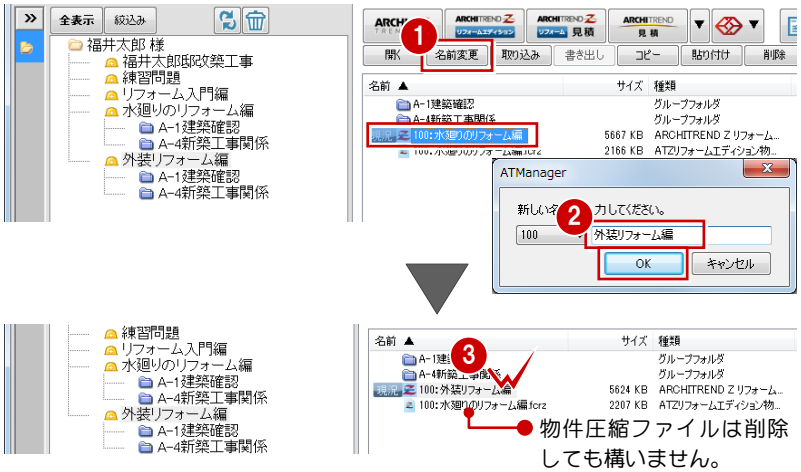


物件名を変更する

❶「外装リフォーム編」の現況図データを選び、［名前変更］をクリックします。

❷ 新しい物件名（ここでは「外装リフォーム編」）を入力して、［OK］をクリックします。
物件名が変わります。

❸ 現況図データをダブルクリックして起動します。



1-2 間取りの入力

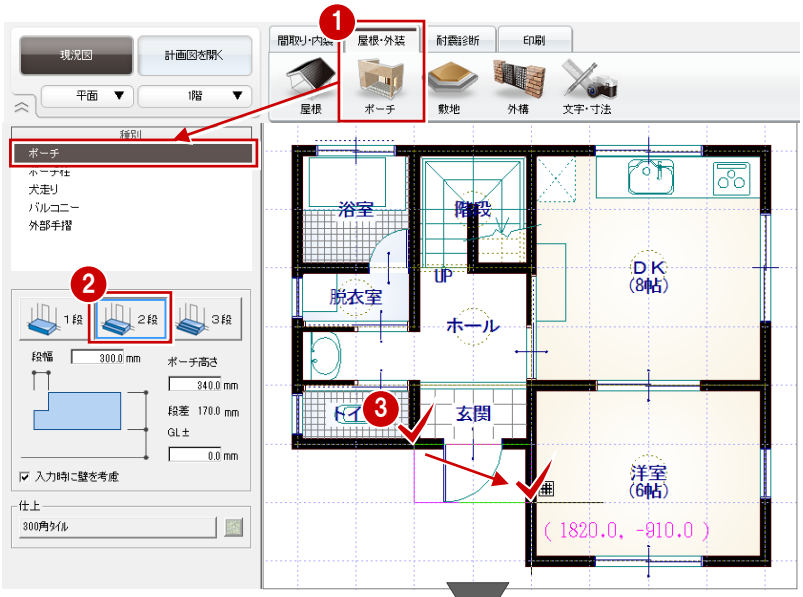
玄関ポーチを入力する

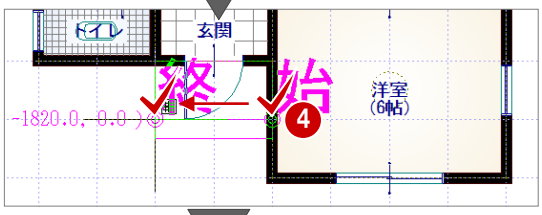
❶［屋根・外装］タブの［ポーチ］をクリックして、［ポーチ］を選びます。

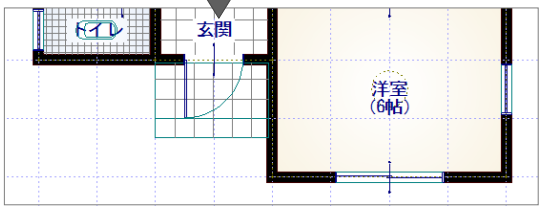
❷ 入力するポーチの段数と幅・高さなどを設定します。
ここでは［2 段］を選択します。

❸ ポーチの上段の範囲を指定します。

❹ 下段の開始位置、終了位置をクリックします。
2 段の玄関ポーチが入力されます。







下段の位置指定について

手順❹のポーチの下段は、始点から時計回りに入力します。ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（または無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。

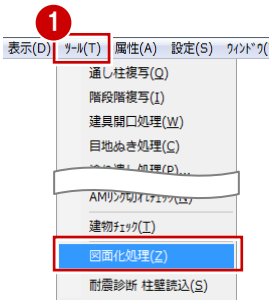
⇒ 玄関ポーチ以外の入力については、「水廻りのリフォーム編」P.4 参照

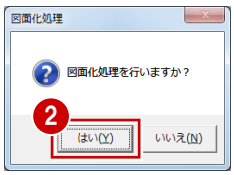
ポーチの目地を抜く

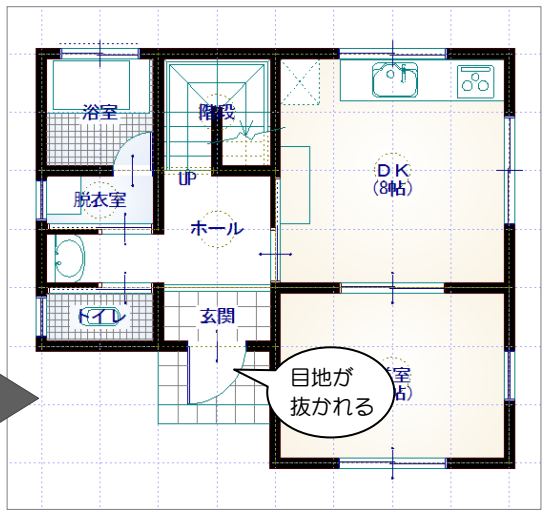
玄関ドアの円弧の部分に目地が入り、外壁仕上にも食い込んでいる状態なので、図面としてきれいに仕上げましょう。

❶ プルダウンメニューから［ツール］の［図面化処理］を選びます。

❷ 確認画面で［はい］をクリックします。







右ダブルクリック

図面化処理は、CAD 画面で右ダブルクリックしても実行できます。

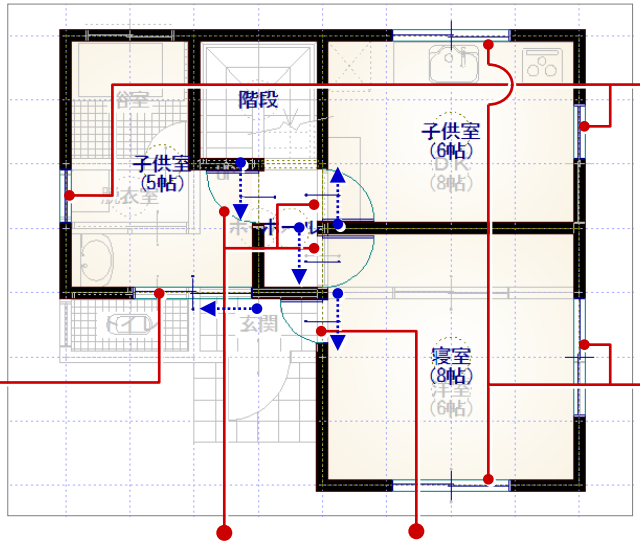
2 階の部屋・建具を入力する

［階・面の切り替え］から「2 階」を選んで、右図のように部屋と建具を入力します。

⇒ 部屋入力については、
「リフォーム入門編」P.7 参照

⇒ 建具入力については、
「リフォーム入門編」P.28 参照

※ ●┈┈▶ は、入力タイプが「始点寄せ」の場合の入力開始点です。



上げ下げ窓（アルミ）
「w740h900」

入力タイプ：中央
取付高：鴨居高参照

2 枚引違窓（アルミ）
「w1650h900」

入力タイプ：中央
取付高：鴨居高参照

2 枚引違戸（アルミ）
「w1650h1800」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

片開ドア（木製）
「単体ドア A タイプ」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

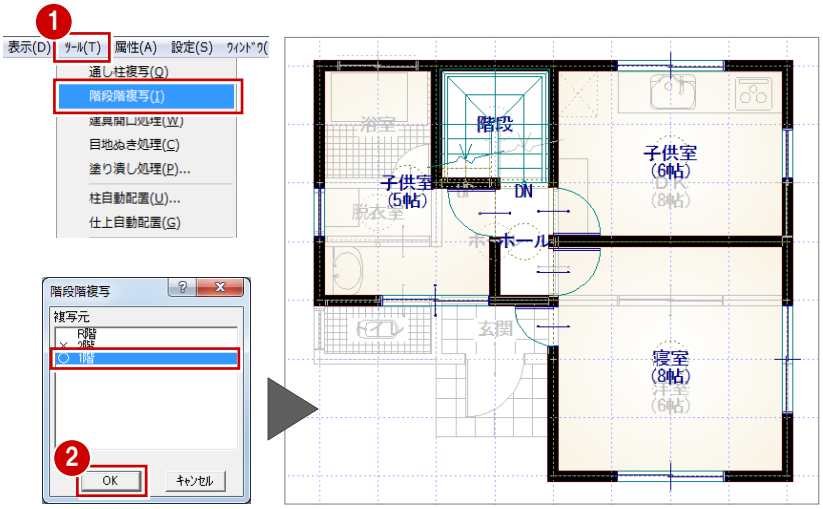
片開ドア（アルミ）
「w600h1800」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

階段を描く

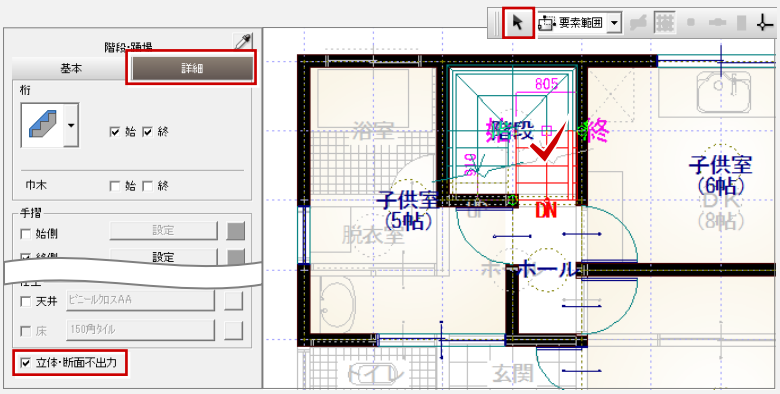
❶ プルダウンメニューから［ツール］の［階段階複写］を選びます。

❷［複写元］が「1 階」になっていることを確認して、［OK］をクリックします。



2 階に複写された階段

2 階に複写された階段は導線が下向きになり、立体では表現されないようにプロパティも設定されています。



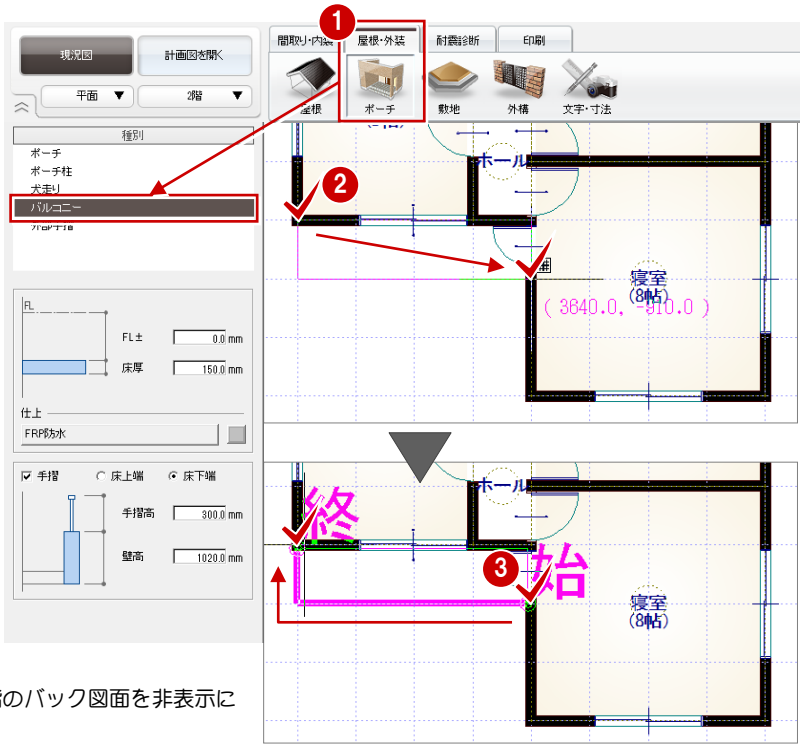
バルコニーを入力する

－ バルコニーを入力する －

❶［屋根・外装］タブの［ポーチ］をクリックして、［バルコニー］を選びます。

❷ バルコニーの範囲を指定します。

❸ 手摺の開始位置、終了位置をクリックします。

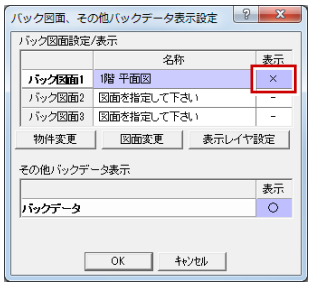


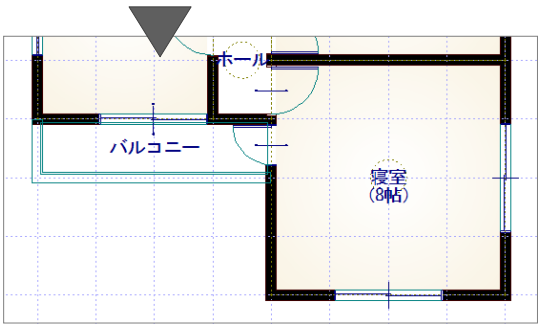
手摺の位置指定について

手摺は、始点から時計回りに入力します。
ただし、始点をクリック後にマウスのホイールボタン（または無変換キー）を押すと、回り方向を逆転できます。

ここでの解説図は、1 階のバック図面を非表示にしています。

⇒ バック図面については、「リフォーム入門編」P.36 参照

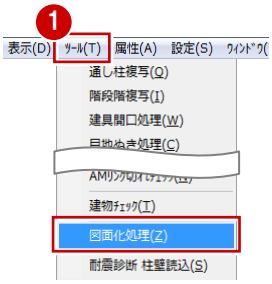


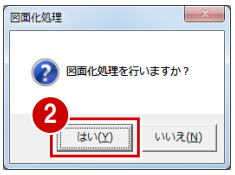


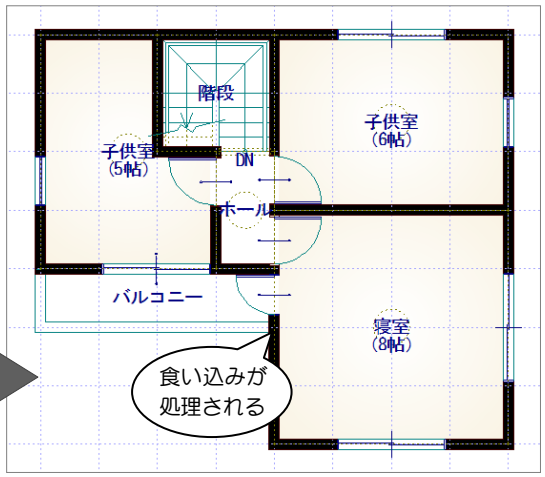
－ 図面化処理を実行する －

❶ プルダウンメニューから［ツール］の［図面化処理］を選びます。

❷ 確認画面で［はい］をクリックします。外壁仕上に食い込んだ部分がきれいに処理されます。

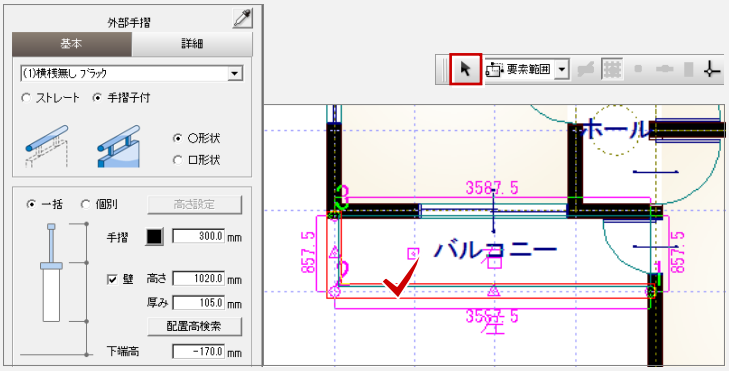






手摺の詳細を設定するには

バルコニーを入力後に手摺を選択すると、プロパティパネルで手摺の形状や高さなどを変更できます。

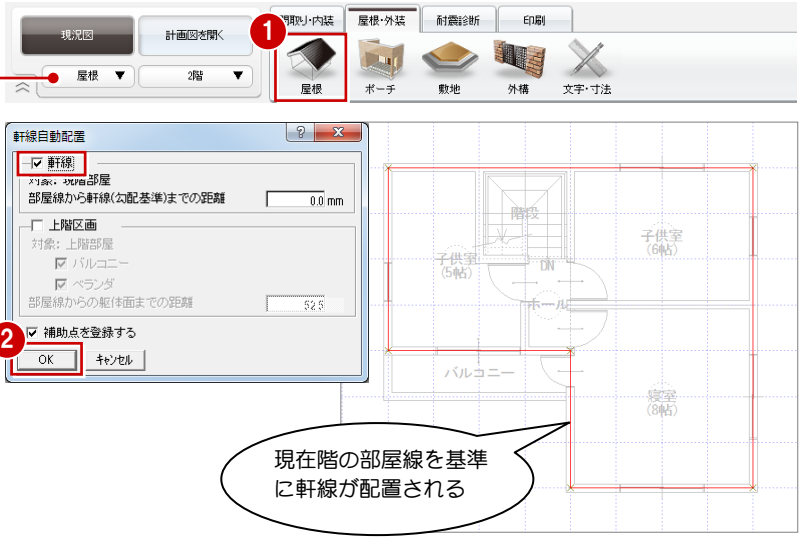


1-3 屋根の入力

2 階の屋根を入力する

❶［屋根］をクリックします。
屋根伏図が開きます。

❷［軒線］が ON になっていることを確認して、［OK］をクリックします。



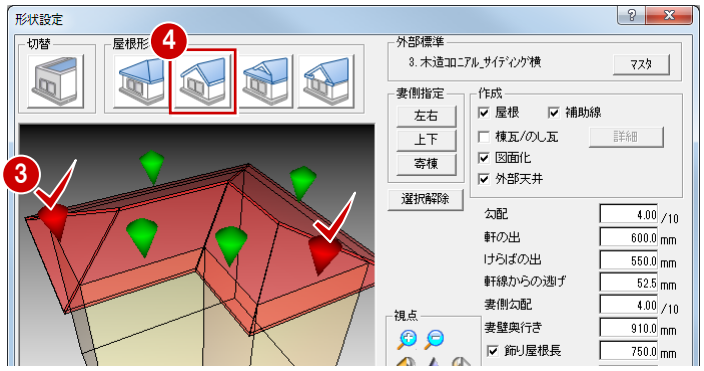
軒線とは

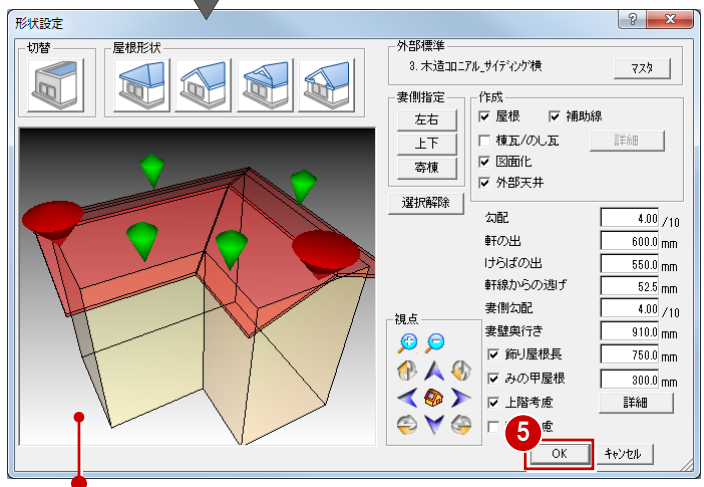
軒線は、軒の位置を表す基準線です。
屋根の自動配置では、軒線と上階区画（上階建物の躯体面）を考慮して作成されます。

❸ 続いて、軒線に寄棟屋根を載せたイメージの形状設定画面が表示されます。
屋根形状を設定する屋根面のマーカーを右図のようにクリックします（2 か所）。

❹［切妻］をクリックします。

❺ 選択した屋根が切妻の表現に変更されたことを確認して、［OK］をクリックします。



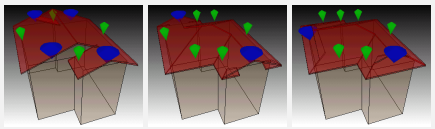


パースモニタと同様に、視点を調整できます。

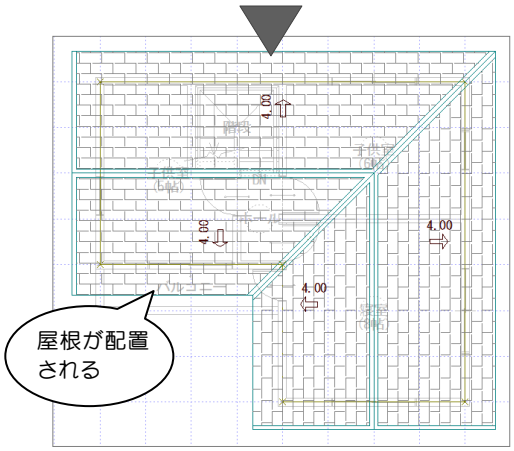
モニタ上のマーカー

緑：屋根形状が寄棟（選択状態：赤）
青：切妻・飾り切妻・入母屋の妻側（選択状態：赤）

モニタ上のマーカーを選択して［屋根形状］のボタンを押すことで、切妻・寄棟などの形状に変えることができます。



屋根の形状を初期の状態に戻すには、［寄棟］をクリックします。

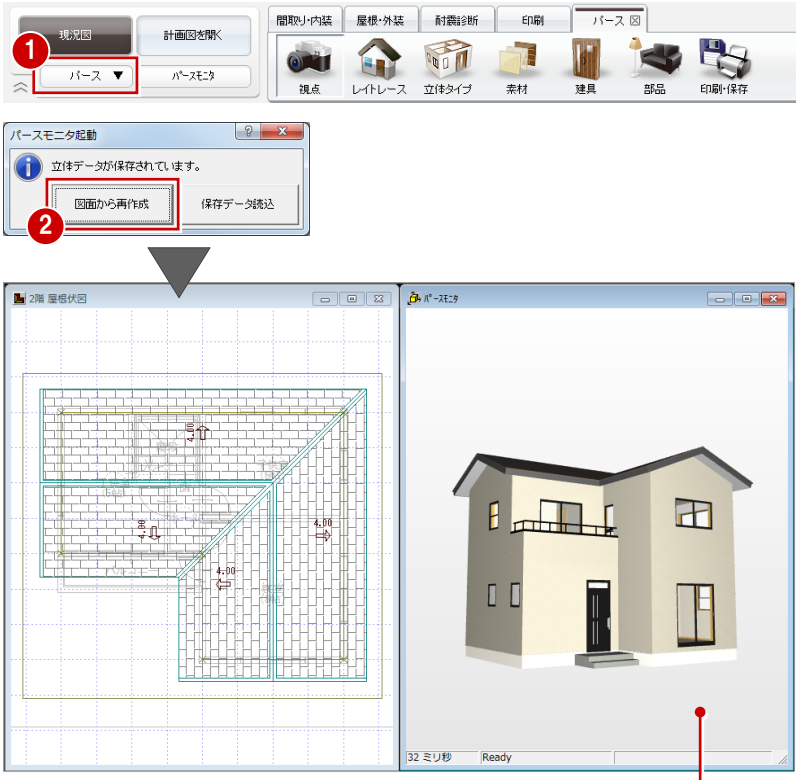


立体を確認する

❶ ［図面の切り替え］から「パース」を選んでパースモニタを開きます。

❷ 確認画面で［図面から再作成］をクリックします。

❸ 視点を変更して、外観を確認しましょう。



屋根伏図からパースを開いた場合は、全階の立体が外観のアングルで表示されます。

⇒ 開いた図面による立体の違いについては、「水廻りのリフォーム編」P.30 参照

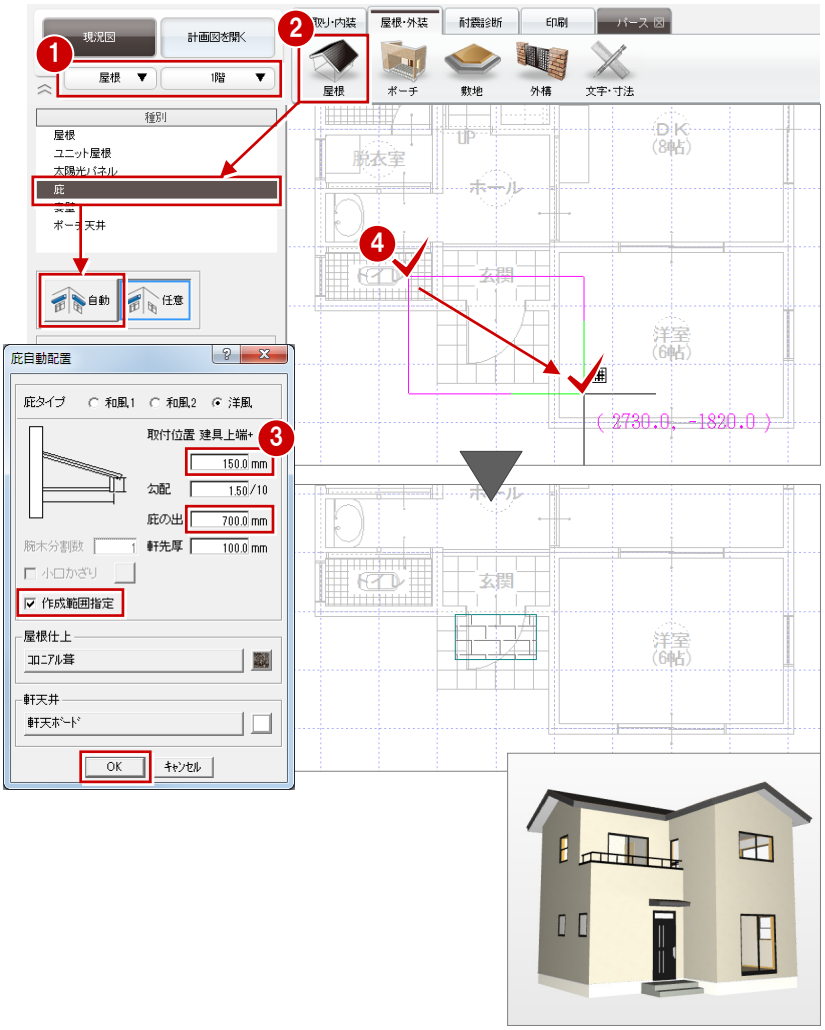
1 階の庇を入力する

❶ 屋根伏図に戻り、1 階を表示します。

❷ ［屋根］をクリックして、［庇］の［自動］を選びます。

❸ 庇の形状や高さなどを設定します。
ここでは、次のように設定して、［OK］をクリックします。
［取付位置］：150
［庇の出］：700
［作成範囲指定］：ON

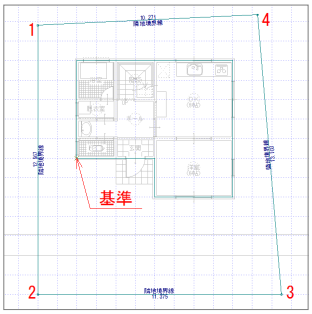
❹ 庇を配置する範囲（ここでは、玄関ドア部分）を指定します。
指定した範囲内にある平面図の建具データを参照して、庇が自動配置されます。



1-4 敷地の入力

敷地を座標入力する

ここでは、建物の角を基準にした敷地の座標値が、右図のようにわかっている場合の入力方法を解説します。



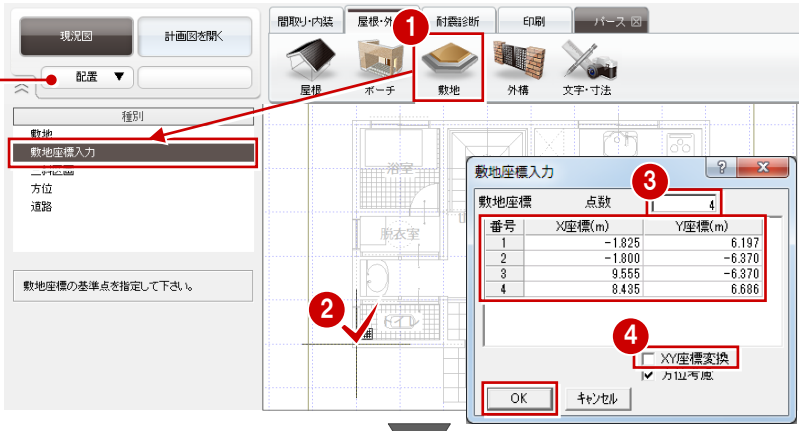
点番	X 座標	Y 座標
1	−1.825	6.197
2	−1.820	−6.370
3	9.555	−6.370
4	8.435	6.686

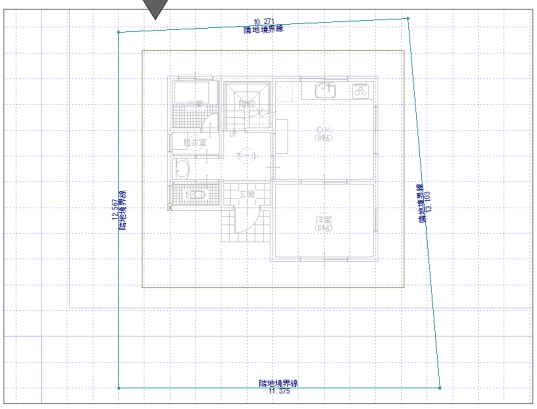
❶［敷地］をクリックして、［敷地座標入力］を選びます。
配置図が開きます。

❷ 座標の基準点をクリックします。

❸［点数］を「4」に変更して、各点の X 座標、Y 座標を入力します。

❹［XY 座標変換］を OFF にして、［OK］をクリックします。





XY 座標変換

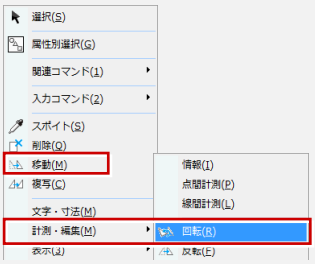
測量のデータを基に座標を入力する場合は、［XY 座標変換］を ON にして、そのまま X と Y の座標値を入力します。
測量座標系は X･Y 座標が反対になっているので、敷地の座標値が入れ替わって入力されます。

注意：座標点の順番

座標点の順番が、敷地に対して右回りか左回りで整列されている必要があります。入力領域にねじれがあるような座標点の場合、［OK］をクリックすると「敷地がねじれています」という警告画面が出ます。そのときは、座標にねじれた部分がないかを確認してください。

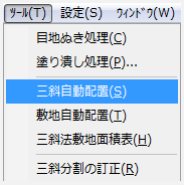
敷地の移動・回転

敷地を移動・回転するには、ポップアップメニューのコマンドを使用します。
方位や道路なども同時に移動・回転するときは、すべて選択してからポップアップメニューのコマンドを実行します。



敷地から三斜区画を作成するには

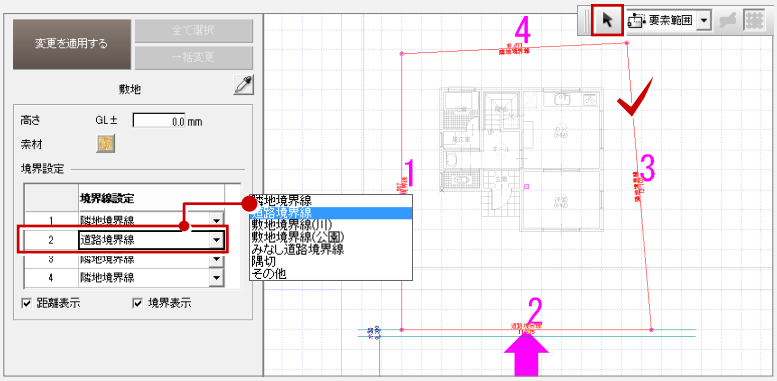
配置済みの敷地から三斜区画を作成するには、プルダウンメニューから［ツール］の［三斜自動配置］を選びます。



敷地の境界線設定

「隣地境界線」の表記を「道路境界線」などに変更したい場合は、敷地を選択してプロパティパネルで設定します。
CAD 画面で敷地辺の番号を確認して、プロパティパネルでその番号の［境界線設定］を変更します。

道路を入力済みの場合は、敷地を選択してポップアップメニューの［関連コマンド］の［敷地境界線自動設定］を実行しても設定できます。



三斜区画から敷地を入力するには

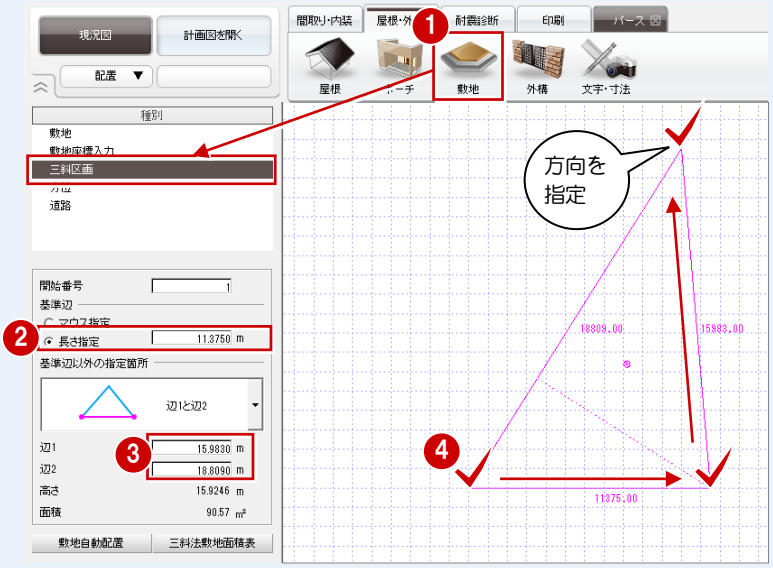
— 三斜区画①を入力する —

❶［敷地］をクリックして、［三斜区画］を選びます。
配置図が開きます。

❷［長さ指定］にチェックを入れ、「11.375」に変更します。

❸ 次のように設定を変更します。
［辺（1）］：15.983
［辺（2）］：18.809

❹ 三斜区画の３辺を順に指定します。



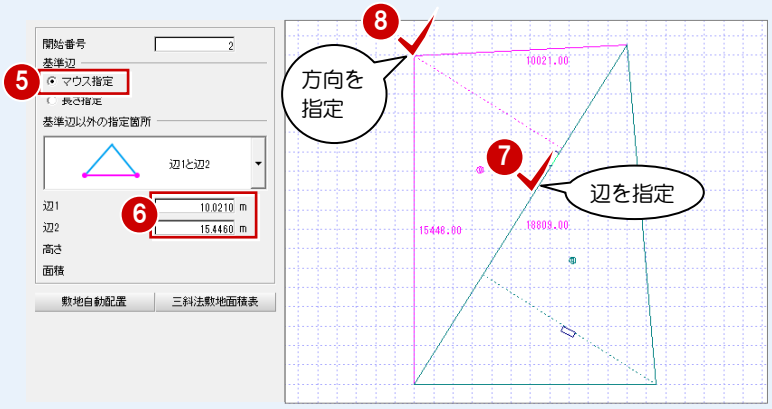
— 三斜区画②を入力する —

❺［マウス指定］にチェックを入れます。

❻ 次のように設定を変更します。
［辺（1）］：10.021
［辺（2）］：15.446

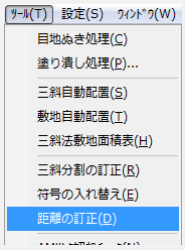
❼ 先ほど入力した区画に接する辺をクリックします。

❽ マウスを動かしてどちら側を辺（1）、辺（2）にするかを指定します。



三斜区画の距離を訂正するには

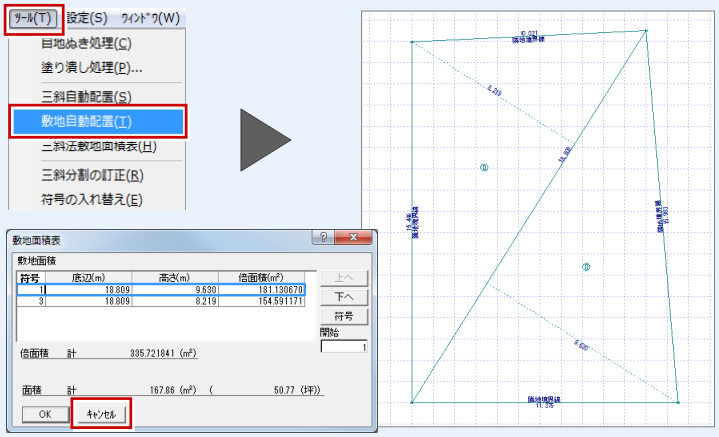
プルダウンメニューから［ツール］の［距離の訂正］を選びます。
または、三斜区画を選んで、ポップアップメニューから［関連コマンド］の［三斜区画距離の訂正］を選びます。



— 敷地を自動配置する —

❶ プルダウンメニューから［ツール］の［敷地自動配置］を選びます。

❷ 敷地面積表を配置する場合は［OK］をクリックして、表の配置位置を指定します。
配置しない場合は［キャンセル］をクリックします。

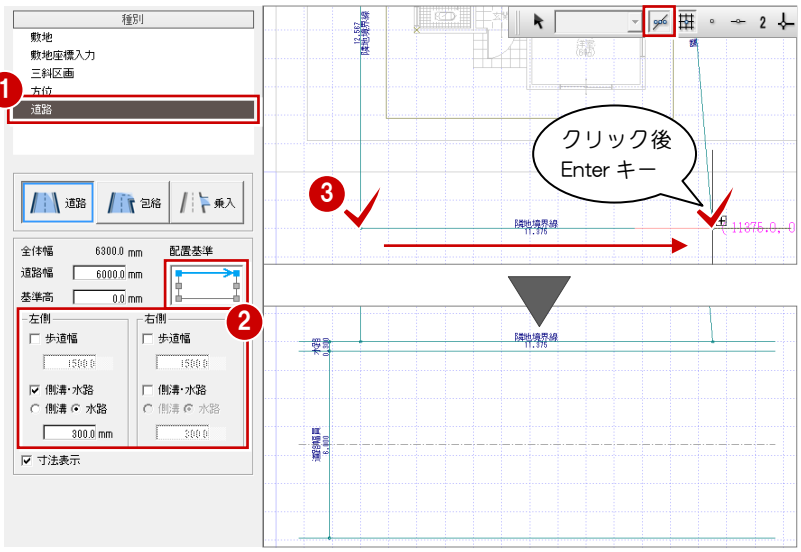


道路を入力する

❶［道路］をクリックします。

❷ 配置基準や左右の幅などを設定します。
ここでは、次のように設定します。
［配置基準］：左面
［左側］：歩道 OFF、水路 300 mm
［右側］：歩道 OFF、側溝・水路 OFF

❸ 道路の始点、終点をクリックします。
（［端点・交点ピック］ON）
Enter キー（またはポップアップメニューの［OK］）で確定します。

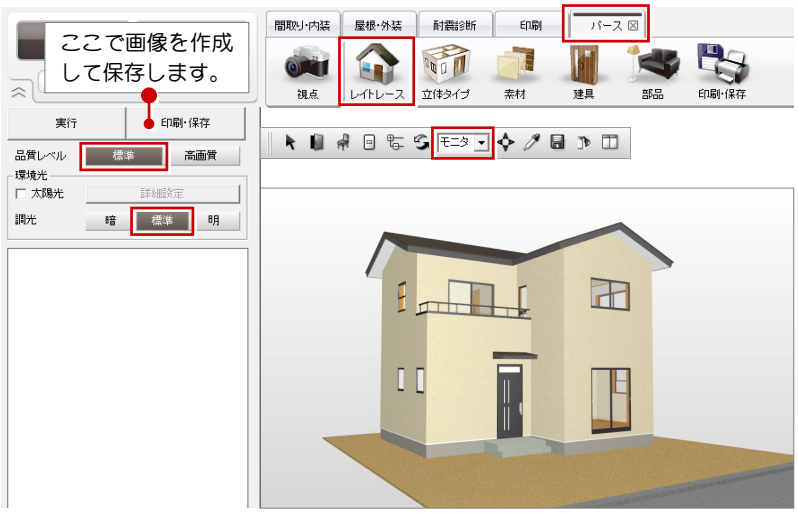


画像を作成する

［パース］タブの［レイトレース］をクリックして、［印刷・保存］で現況の外観パースを作成しましょう（後ほどプレゼンボードで使用します）。

⇒ 設定および画像の作成については、「リフォーム入門編」P.41、43 参照

［背景／光源モード］：モニタ
［品質レベル］：標準
［調光］：標準

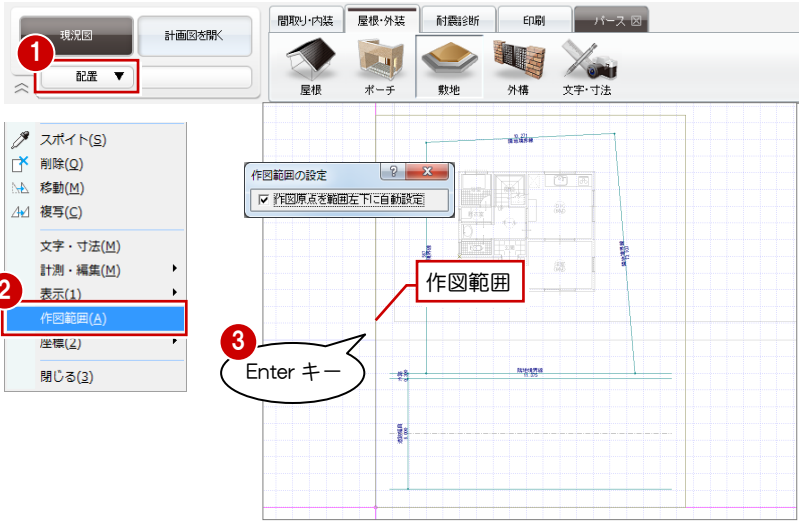


作図範囲を設定する

❶［図面の切り替え］から「配置」を選んで図面に戻ります。

❷ ポップアップメニューから［作図範囲］を選びます。

❸ Enter キー（またはポップアップメニューの［OK］）を押すと、敷地と道路が納まるように作図範囲が設定されます。

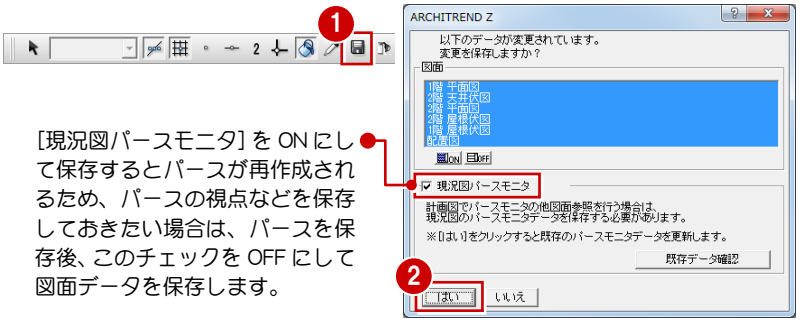


データを保存する

❶ フローティングバーの をクリックします。

❷ 確認画面で［はい］をクリックします。

［現況図パースモニタ］を ON にして保存するとパースが再作成されるため、パースの視点などを保存しておきたい場合は、パースを保存後、このチェックを OFF にして図面データを保存します。



2 計画図の作成

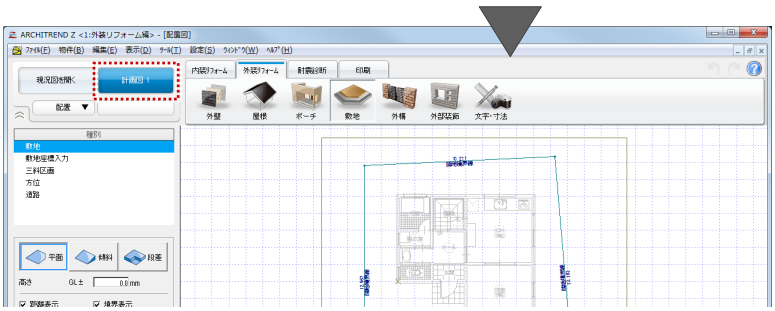
現況図ができたら、それをもとにリフォームの計画図を作成しましょう。
ここでは、間取りの変更にともなう屋根の追加入力や外装の変更などを解説します。

2-1 計画図データの作成

計画図を開く

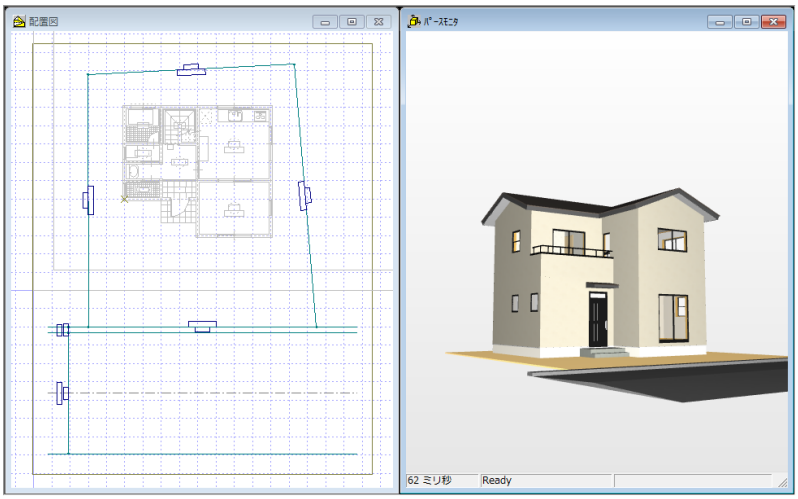
❶［計画図を開く］をクリックします。

❷［コピーする物件の選択］が［現況図］になっていることを確認して、［OK］をクリックします。
現況図がコピーされた状態で、計画図 1 が開きます。



立体を確認する

❶［図面の切り替え］から「パース」を選んでパースモニタを開きます。



※ 平面図・天井伏図からパースを開いて、その階のみの立体が作成された場合は、［立体タイプ］をクリックして、［全階］で再作成しておきましょう。

⇒ 立体タイプについては、「水廻りのリフォーム編」P.31 参照

2-2 間取りの変更

部屋を拡張する

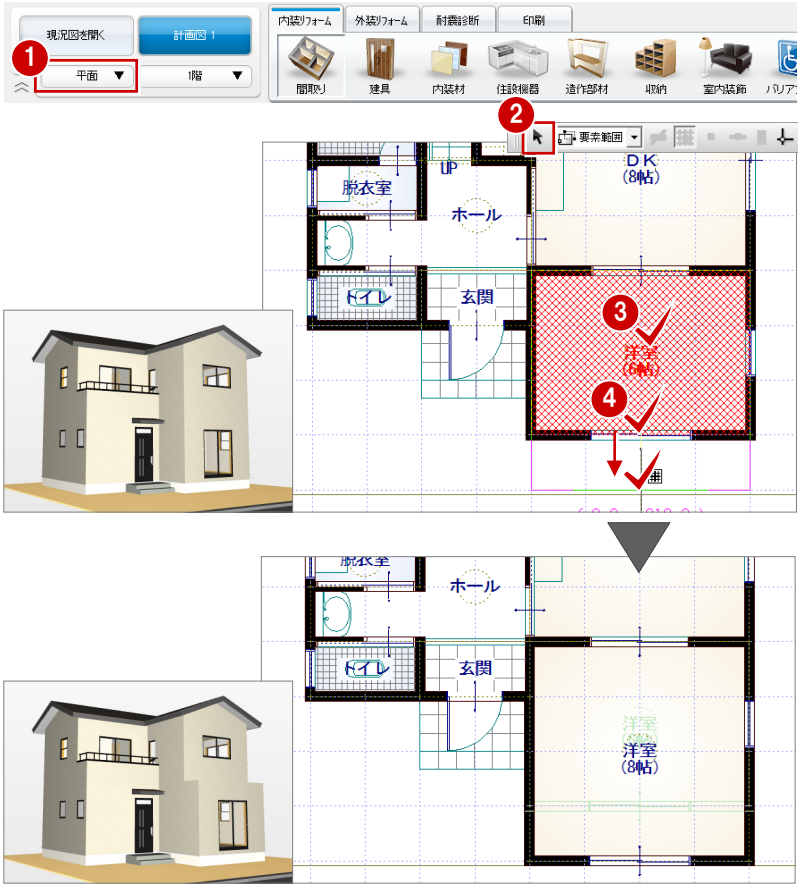
ここでは 1 階の洋室を増築するため、トラッカーで部屋を拡張しましょう。

❶［図面の切り替え］から「平面」を選びます。

❷❸「洋室」を選択します。

❹ トラッカー（△）をクリックして、右図の位置まで部屋を拡張します。

⇒ トラッカーの操作については、「リフォーム入門編」P.16 参照

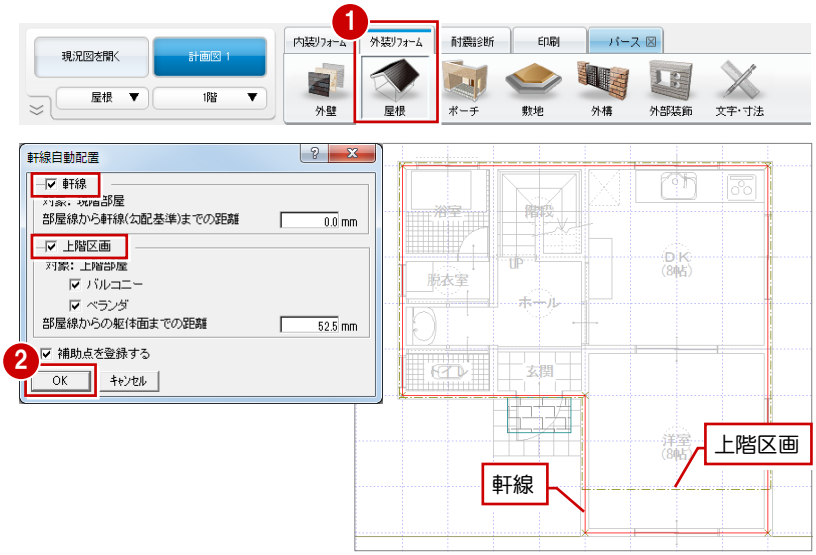


屋根を入力する

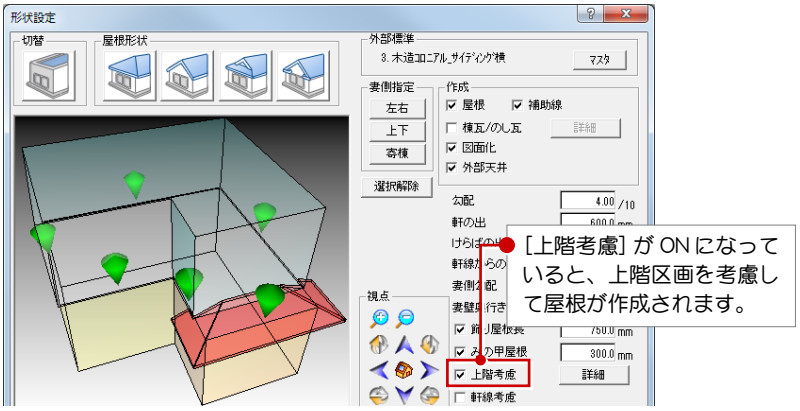
❶［外装リフォーム］タブの［屋根］をクリックします。

❷［軒線］と［上階区画］が ON になっていることを確認して、［OK］をクリックします。

> **上階区画とは**
>
> 上階建物の躯体面のラインです。
> 上階区画を作成しておくと、下階の屋根を配置する際に、上階建物がない部分にだけ屋根を作成させることができます。
> バルコニーやベランダも考慮します。



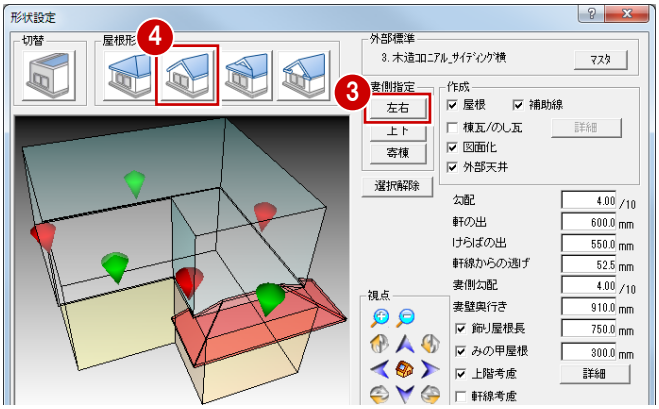
続いて、［形状設定］ダイアログが表示されます。



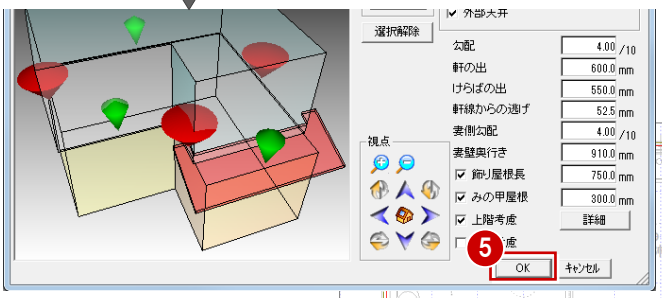
［上階考慮］が ON になっていると、上階区画を考慮して屋根が作成されます。

❸［左右］をクリックします。
屋根の左右面に位置するマーカーが選択されます。

❹［切妻］をクリックします。

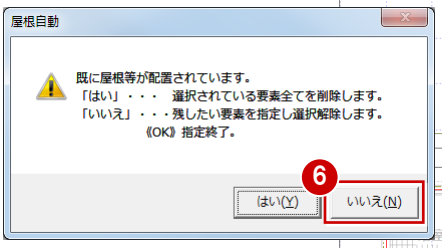


❺ 1 階の屋根が片流れに変更されたことを確認して、［OK］をクリックします。



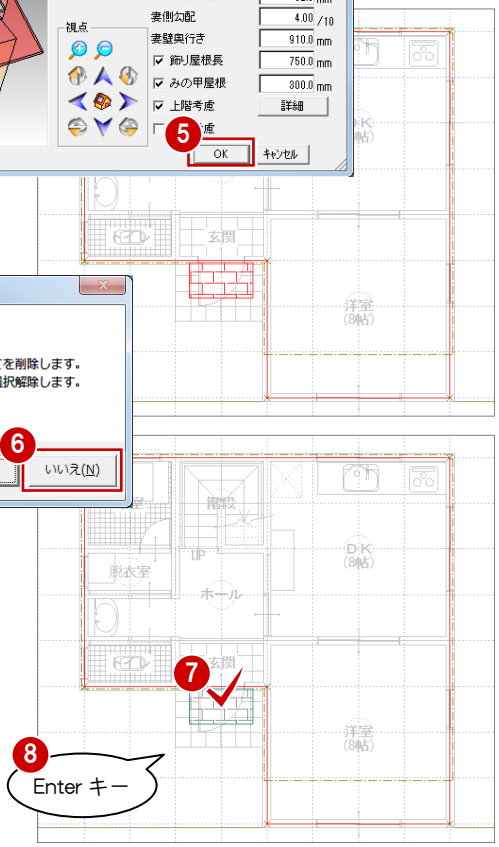
❻ 屋根や庇などが存在する場合、右図のような確認画面が表示されるので、［いいえ］をクリックします。

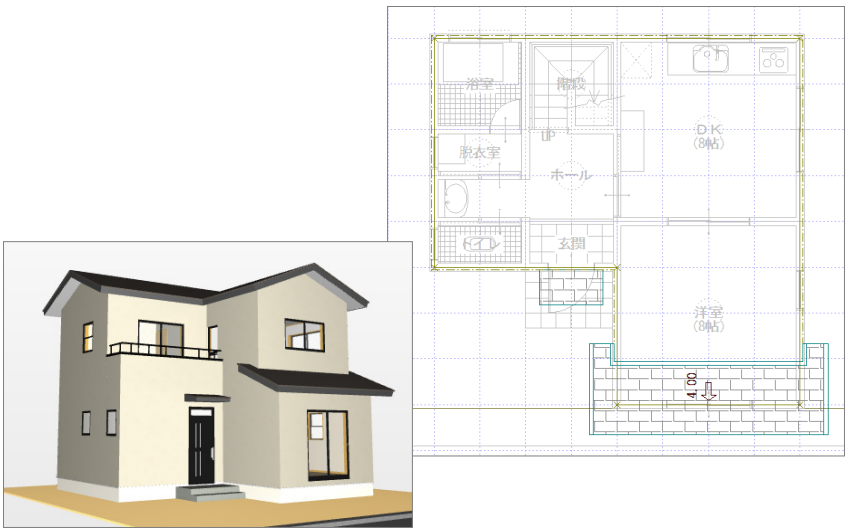
※［はい］をクリックした場合は、存在する屋根などを削除して新たに作成します。



❼ 残したい屋根をクリックして選択状態を解除します（赤くない状態にします）。

❽ Enter キー（またはポップアップメニューの［OK］）を押すと、屋根が作成されます。





⇒ 様々な屋根・天井の入力例については、「リフォーム応用編」P.18 参照

2-3 外装の変更

建具を入れ替える

2 階寝室の窓を、引違から 3 つの窓に変更しましょう。

❶ 平面図を開き、2 階を表示します。

❷［建具］をクリックして、［装飾窓］を選びます。

❸ 建具を選択します。
上げ下げ窓（アルミ）
「w365h1300」

❹ 入力タイプを「始点寄せ」に変更します。

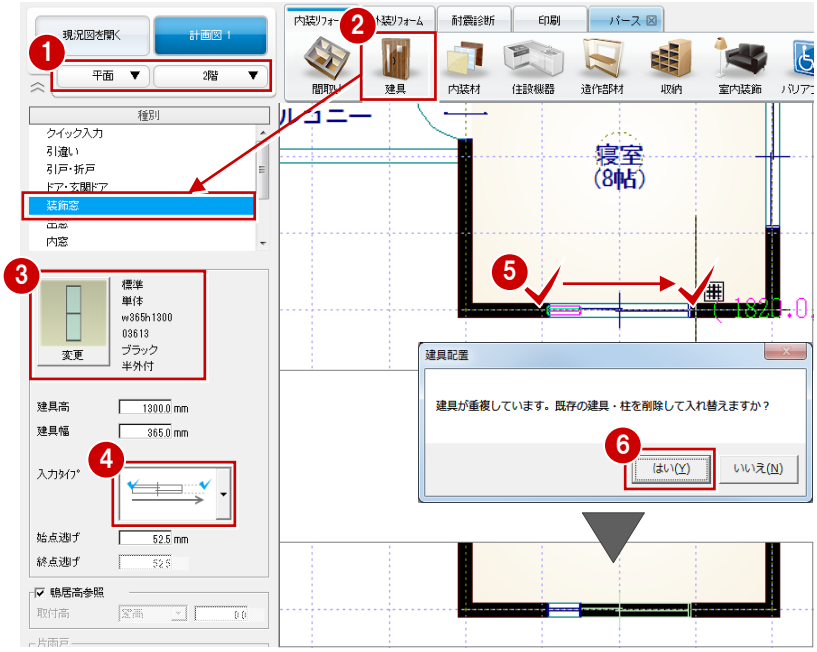
❺ 右図のように、既存の引違窓に重ねて入力します。

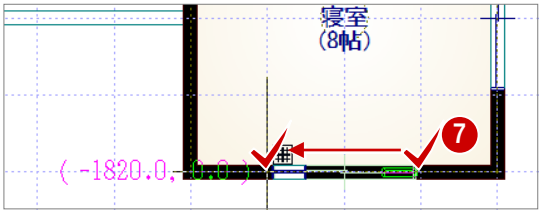
❻ 確認画面で［はい］をクリックします。
既存の引違窓が削除されて、上げ下げ窓に替わります。

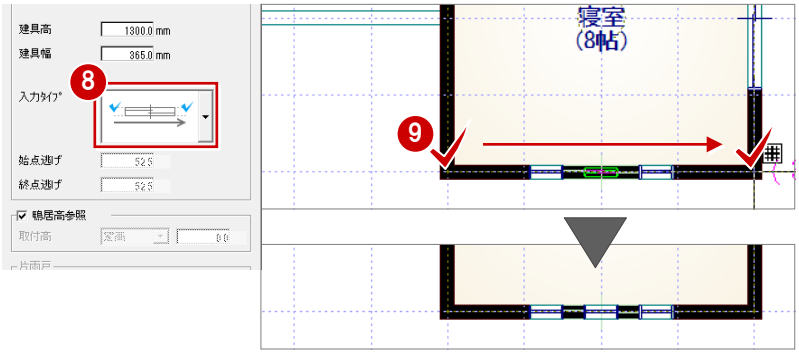
※［いいえ］をクリックした場合は、重複して入力されます。

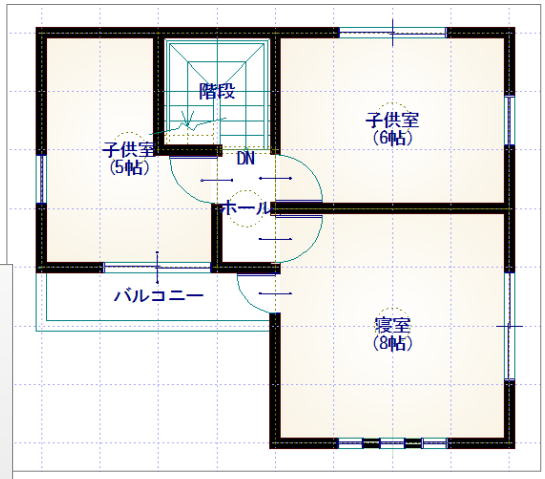
❼ もう 1 か所は、入力方向を反対にして入力します。

❽❾ 中央の窓は、入力タイプを「中央」に変更して入力します。









外壁を変更する

－ すべての階の外壁を変更する －

❶［外装リフォーム］タブの［外壁］をクリックして、［外壁張り替え（全面）］を選びます。

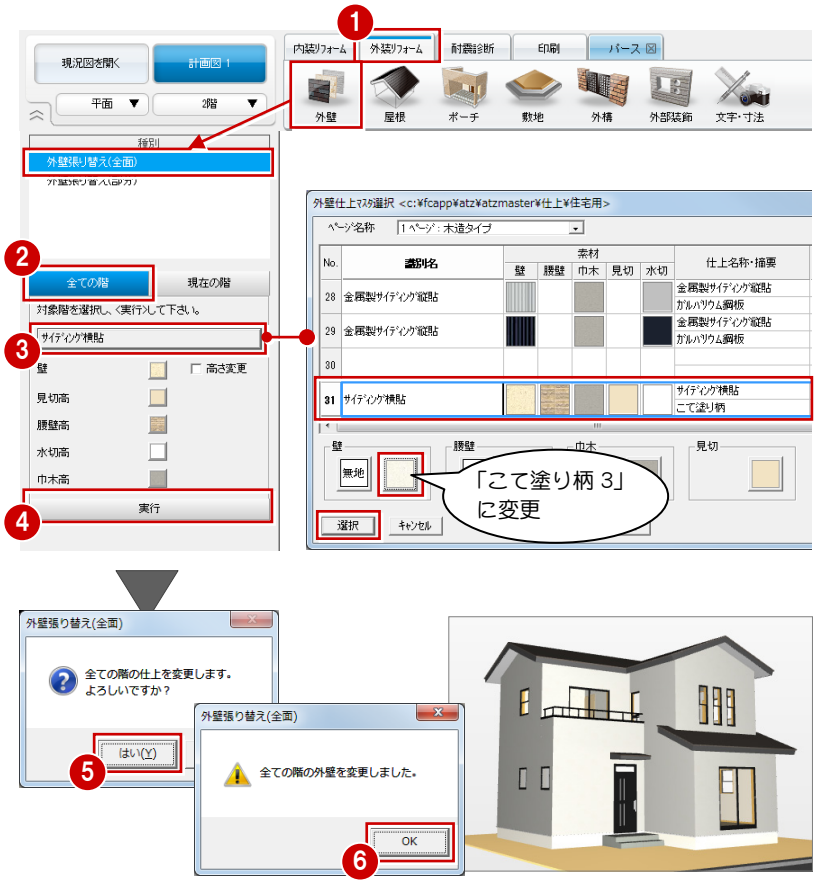
❷ 対象が［全ての階］であることを確認します。

❸ 変更後の外壁仕上を選びます。
ここでは、「No.31：サイディング横貼」を選び、壁の素材を「こて塗り柄 3」に変更します。

❹［実行］をクリックします。

❺ 確認画面で［はい］をクリックすると、すべての階の外壁仕上が変わります。

❻ 確認画面で［OK］をクリックします。



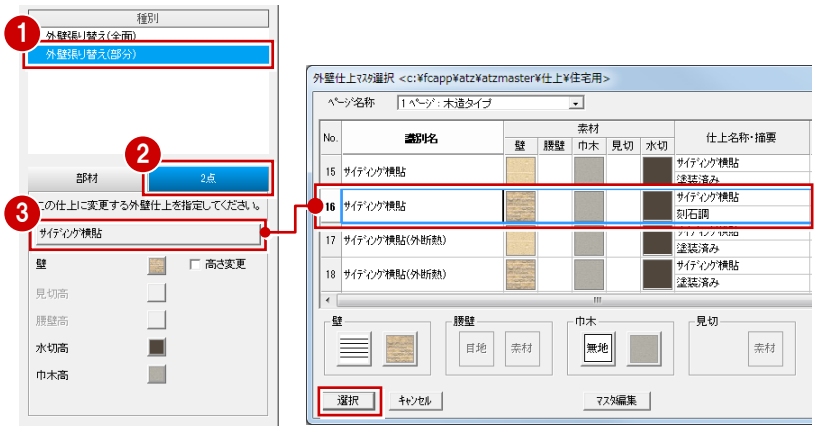
－ 外壁を部分的に変更する －

外壁を部分的に張り分けてみましょう。

❶［外壁張り替え（部分）］をクリックします。

❷ 対象を［2 点］に変更します。

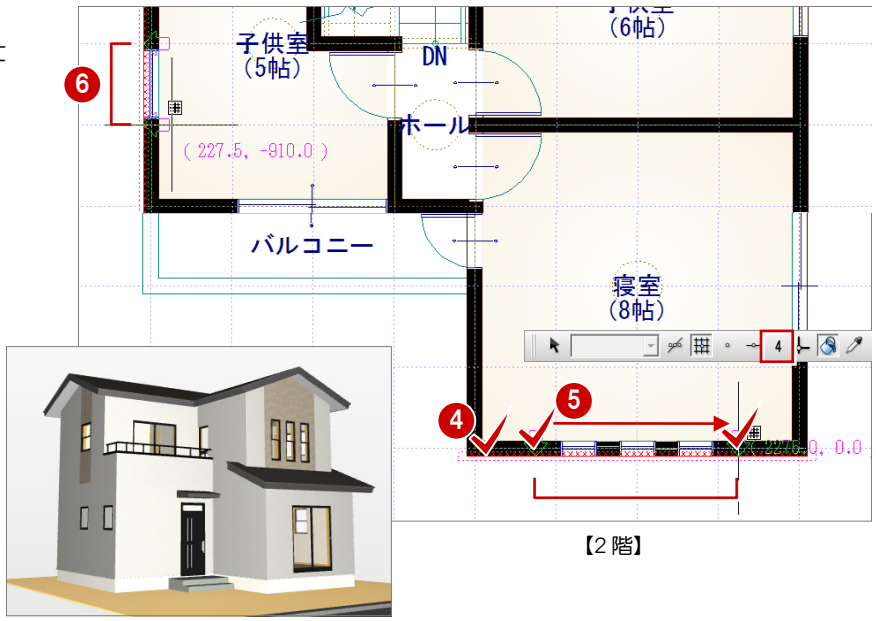
❸ 変更後の外壁仕上を選びます。
ここでは、「No.16：サイディング横貼」を選びます。



❹ 分割する外壁仕上をクリックします。
ここでは、3 つの上げ下げ窓部分の外壁仕上を指定します。

❺ 分割点として、右図のように上げ下げ窓から 1/4 グリッド外側の位置をクリックします。
（グリッド分割数：「4」）

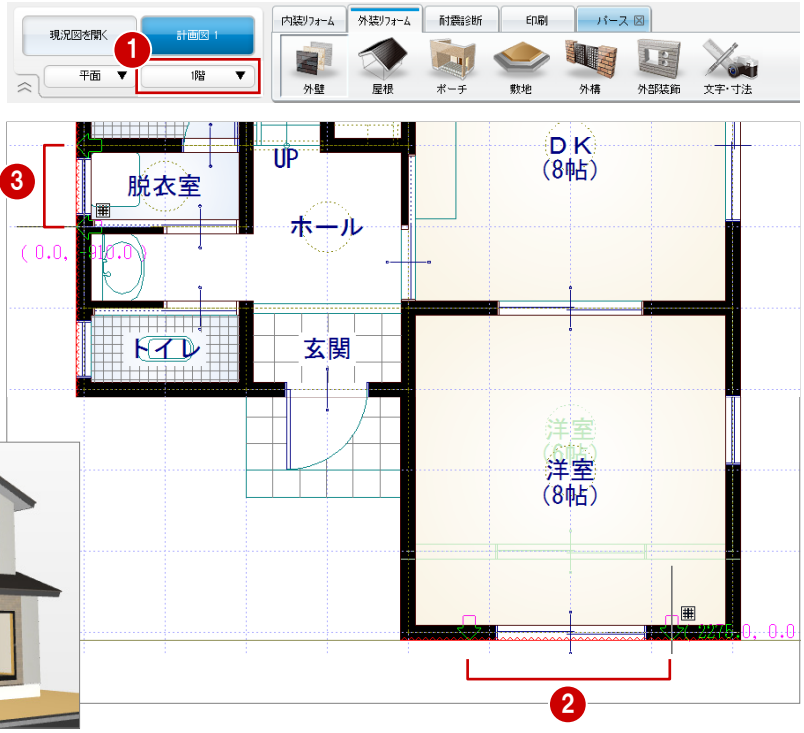
❻ 同様にして、西側の上げ下げ窓部分も仕上を分割します。
（分割位置はグリッド上）



【2 階】

－ 1階の外壁を部分的に変更する －

❶～❸ 2階と同様にして、1階の外壁も部分的に変更します。



屋根を葺き替える

❶［屋根］をクリックして、［屋根葺き替え］を選びます。

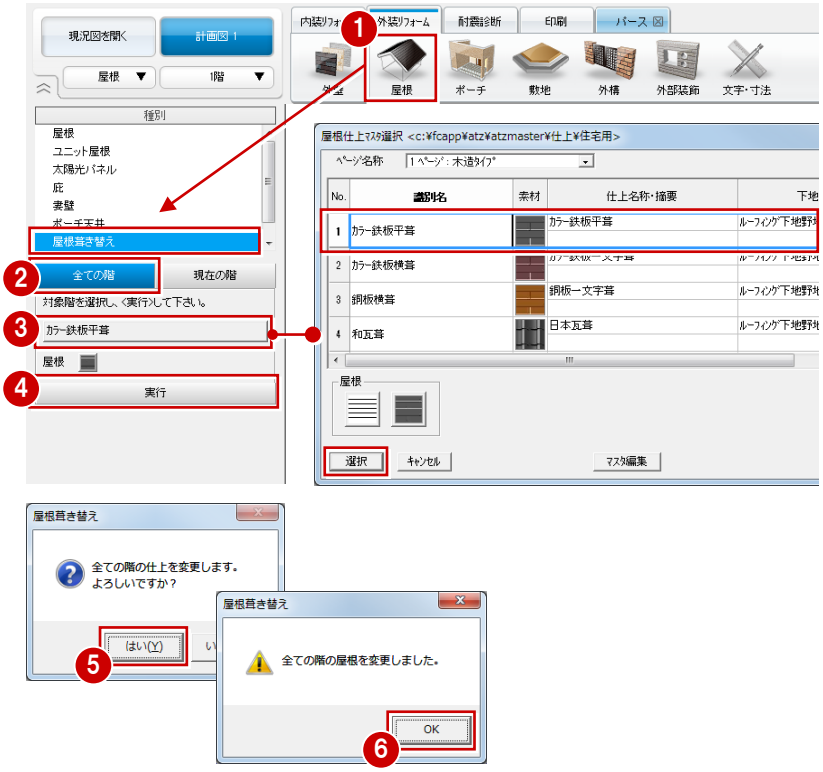
❷ 対象が［全ての階］であることを確認します。

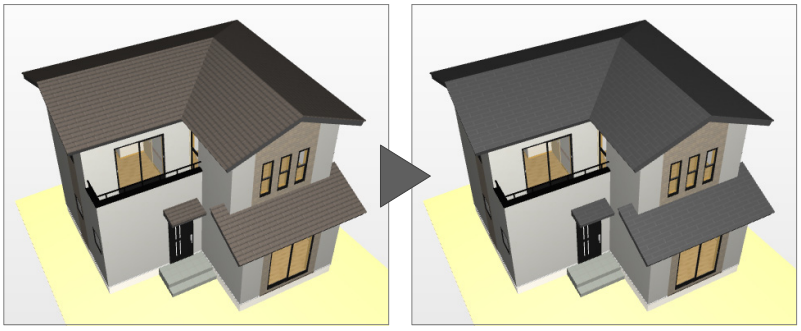
❸ 変更後の屋根仕上を選びます。
ここでは、「No.1：カラー鉄板平葺」を選びます。

❹［実行］をクリックします。

❺ 確認画面で［はい］をクリックすると、すべての階の屋根仕上が変わります。

❻ 確認画面で［OK］をクリックします。





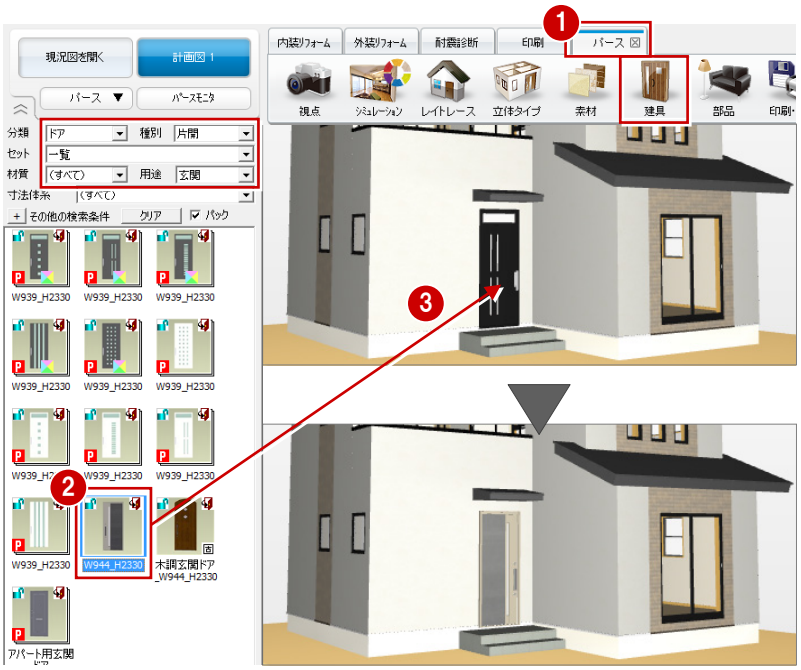
パースから建具を変更する

玄関ドアを変更しましょう。

❶［パース］タブの［建具］をクリックします。

❷ 変更後の建具を選びます。
　［分類］：ドア
　［種別］：片開
　［用途］：玄関
　［品名］：W944_H2330

❸ パースモニタの玄関ドア上へドラッグ＆ドロップします。



パースから素材を変更する

― 破風の素材を変更する ―

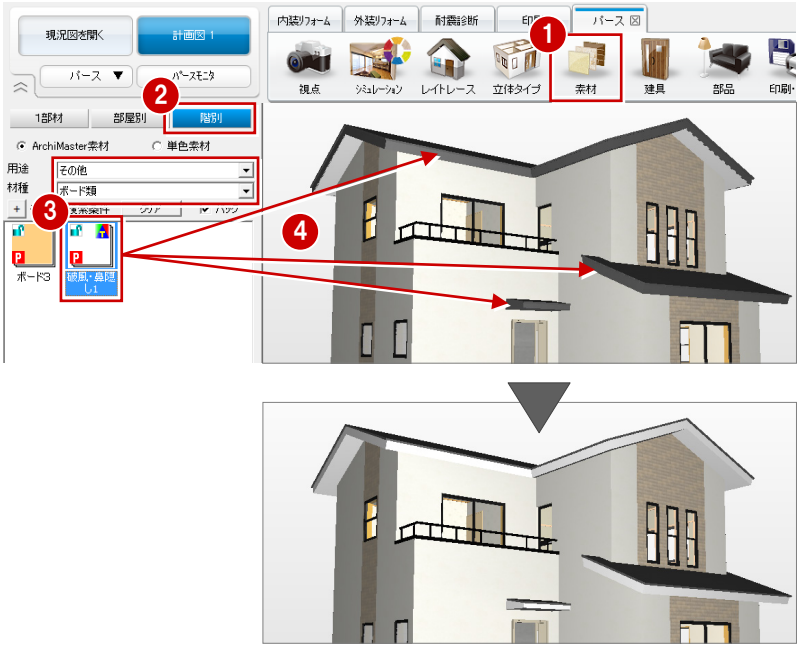
❶［素材］をクリックします。

❷ 対象を［階別］に変更します。

⇒ 対象による違いについては、「リフォーム入門編」P.38 参照

❸ 変更後の素材を選びます。
　［用途］：その他
　［材種］：ボード類
　［品名］：破風・鼻隠し 1

❹ パースモニタの破風へ、素材をドラッグ＆ドロップします。



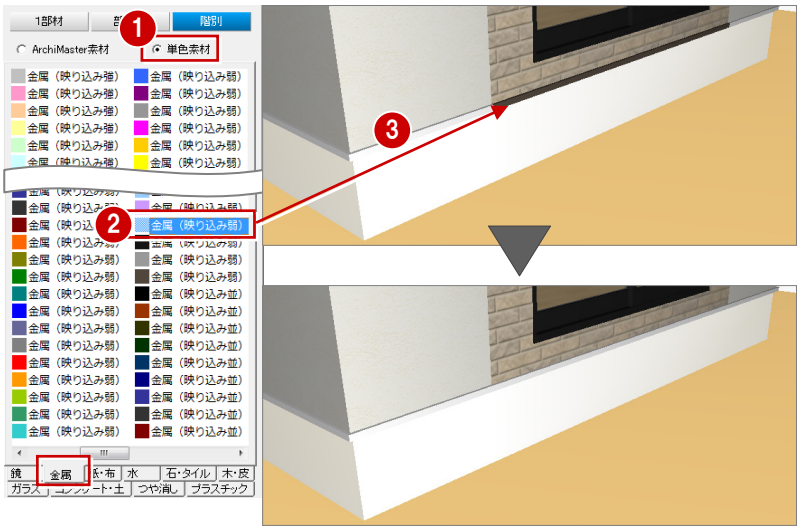
― 水切の素材を変更する ―

部分的に変更した 1 階外壁の水切の素材が異なるため、素材を変更します。

❶［単色素材］をクリックします。

❷［金属］タブをクリックして、「金属（映り込み弱）」を選びます。

❸ 水切へ、素材をドラッグ＆ドロップします。

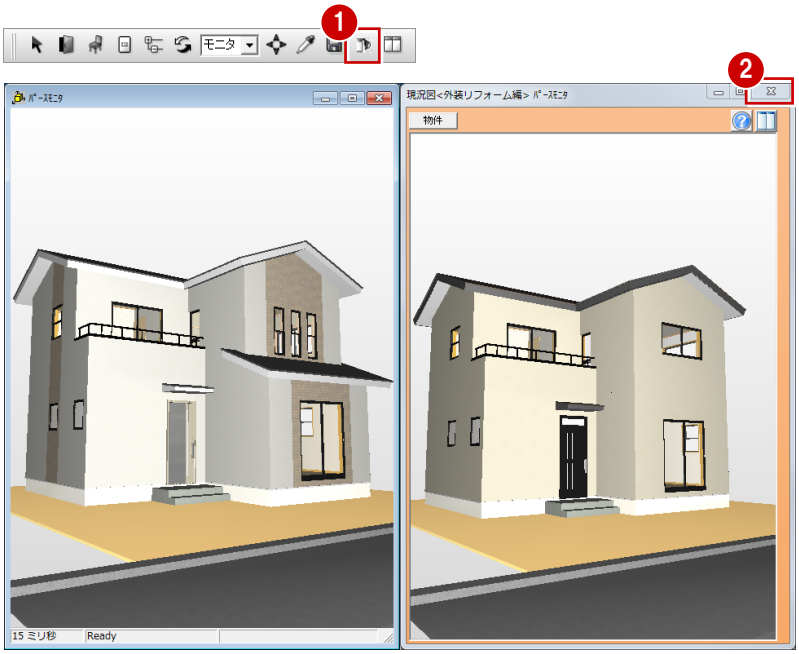


変更前と比較する

❶ フローティングバーの をクリックします。

現況図のパースが並べて表示されます。

❷ 確認が終了したら、［現況図］ウィンドウを閉じます。



3 パースの作成

アプローチ、カーポート、自動車を入力して、外観パースを作成しましょう。

3-1 外構の入力

アプローチを入力する

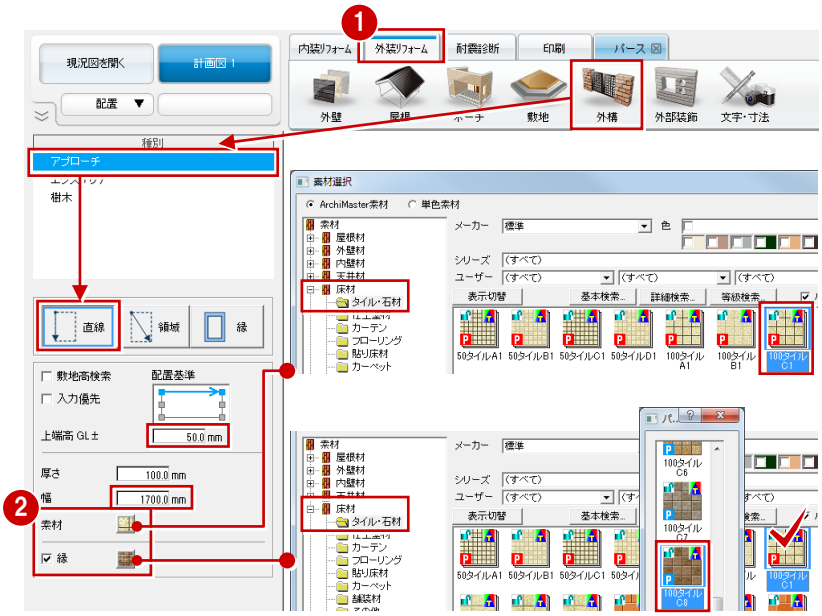
－ アプローチを連続線で入力する －

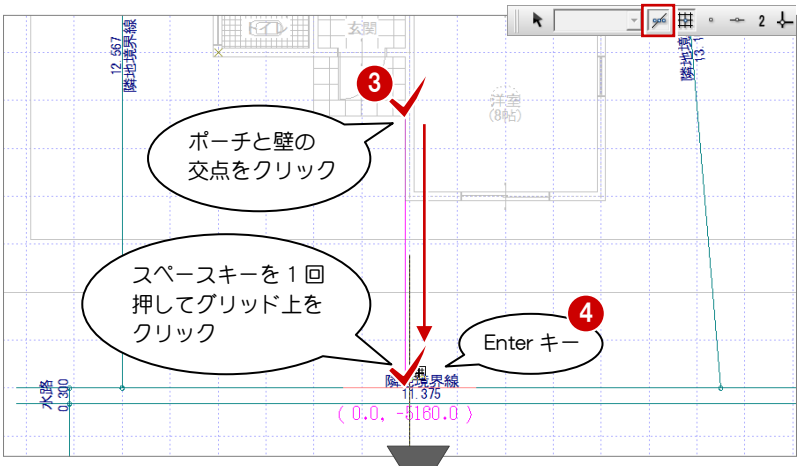
❶ ［外装リフォーム］タブの［外構］をクリックして、［アプローチ］の［直線］を選びます。

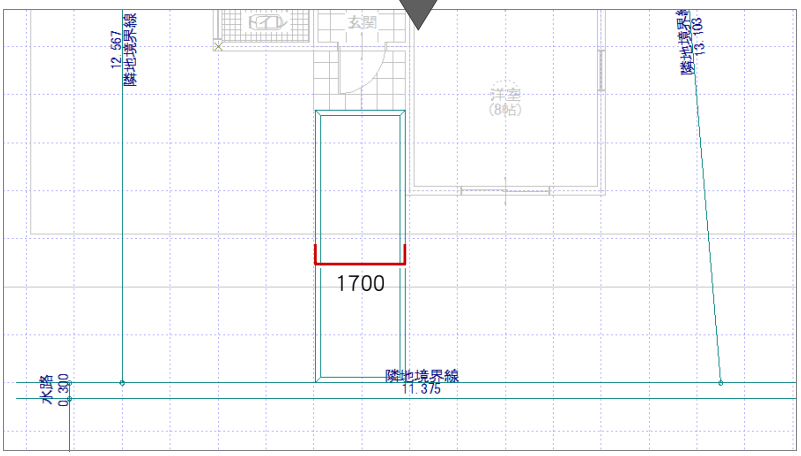
❷ 高さや素材などを設定します。
［上端高］：50
［幅］：1700
［素材］：「床材－タイル・石材」の「100 タイル C1」
［縁］：ON
「床材－タイル・石材」の「100 タイル C8」

❸ アプローチの頂点を入力します。
始点は、ポーチと壁の交点をクリックします（［端点・交点ピック］ON）。
次にスペースキーを 1 回押して、敷地辺上のグリッドをクリックします。

❹ Enter キー（またはポップアップメニューの［OK］）を押すと、アプローチが配置されます。



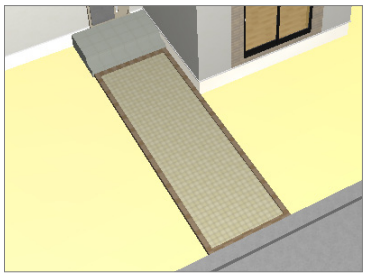




ドラフター機能

スペースキーを押すとドラフター機能が有効になり、クリックした位置から水平・垂直方向に次の点を固定できます。

フローティングバーの を ON にしても同様です。



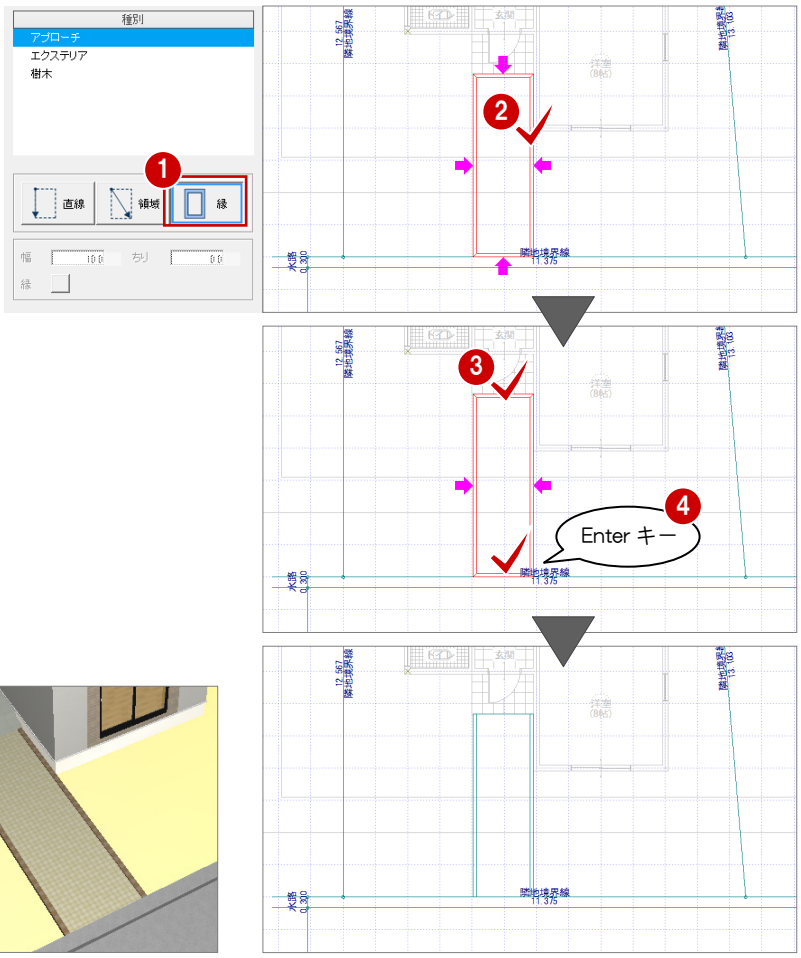
－ アプローチの縁を設定する －

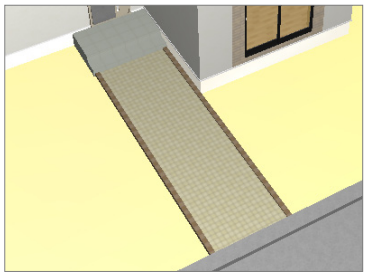
❶［アプローチ］の［縁］をクリックします。

❷ アプローチをクリックします。
縁が設定されている辺に矢印が表示されます。

❸ 右図のように、縁が不要な辺をクリックして矢印を解除します（2 か所）。

❹ Enter キー（またはポップアップメニューの［OK］）を押すと、縁が設定されます。





エクステリア部品を入力する

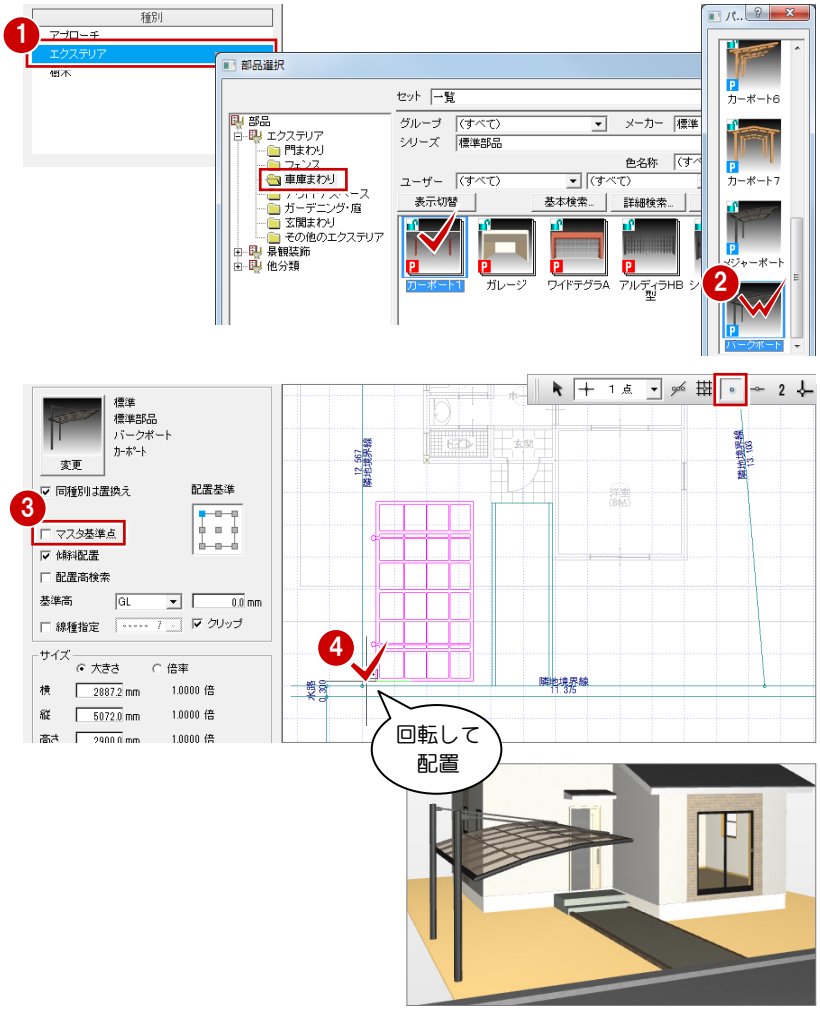
－ カーポートを入力する －

❶［エクステリア］をクリックします。

❷ ここでは、次の部品を選びます。
［分類］：エクステリア
［種別］：車庫まわり
［品名］：バークポート

❸［マスタ基準点］が OFF であることを確認します。

❹ マウスのホイールボタン（または無変換キー）で部品の向きを回転して、右図のように配置します。
（［フリーピック］のみ ON）



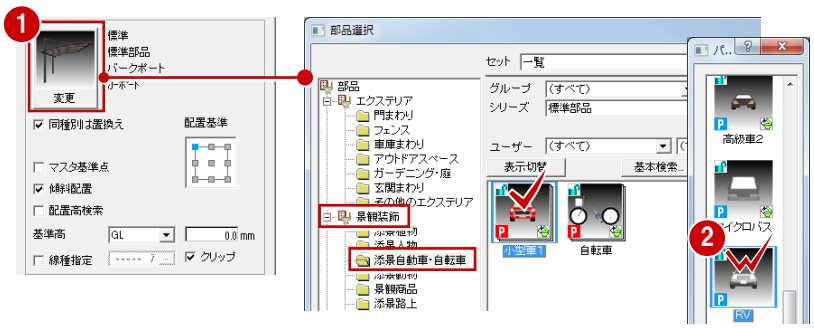
－ 自動車を入力する －

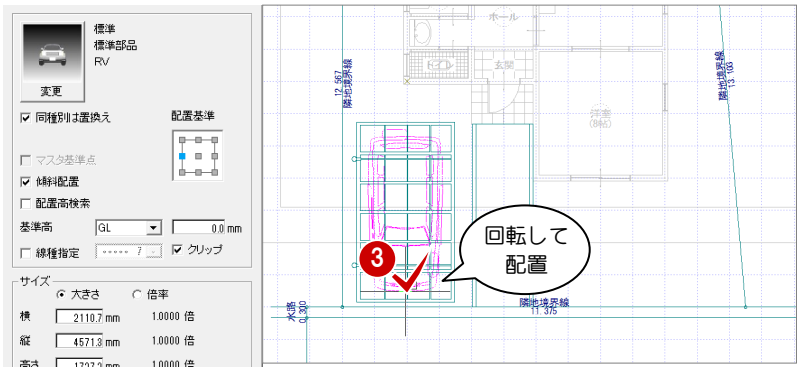
❶～❸ 同様にして、自動車も配置します。

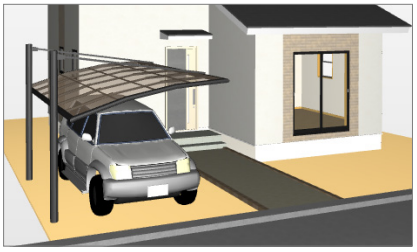
［分類］：景観装飾

［種別］：添景自動車・自転車

［品名］：RV







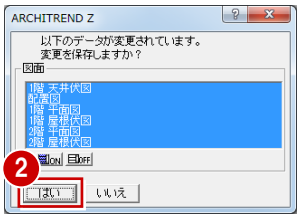
樹木

樹木を入力したい場合は、［樹木］をクリックし、マスタを指定します。

データを保存する

❶ フローティングバーの をクリックします。

❷ 確認画面で［はい］をクリックします。

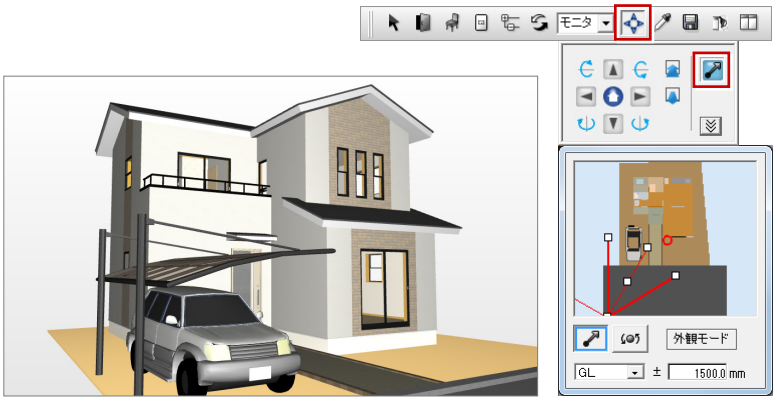


3-2 外観パースの作成

視点を設定する

［視点コントローラ］や［視点モニタ］を使って、視点を設定します。

⇒ 視点の設定方法については、「リフォーム入門編」P.20 参照

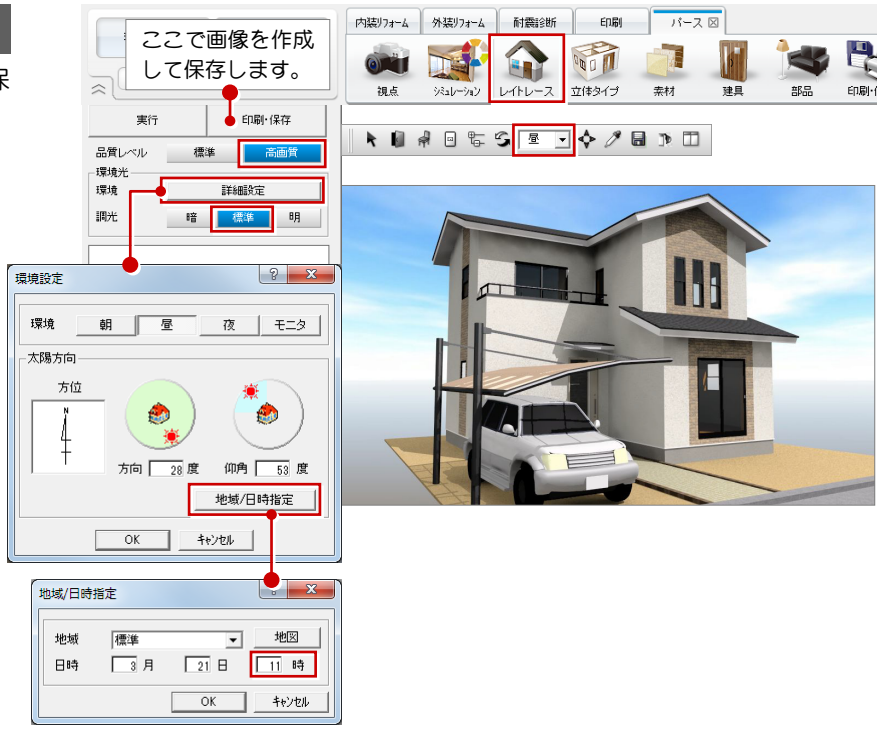


画像を作成する

［レイトレース］をクリックして、［印刷・保存］で画像を作成します。

⇒ 設定および画像の作成については、「リフォーム入門編」P.41、43 参照

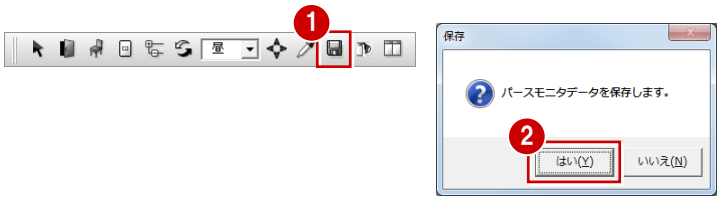
［背景／光源モード］：昼
［品質レベル］：高画質
［環境］：太陽方向 28 度、仰角 53 度
（3 月 21 日 11 時）
［調光］：標準



パースモニタデータを保存する

❶ パース用フローティングバーの を クリックします。

❷ 確認画面で［はい］をクリックします。



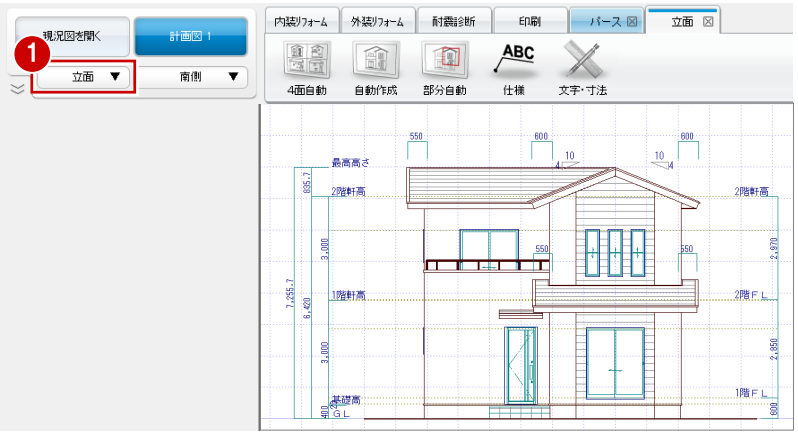
4 立面図の作成

立面図を作成しましょう。
ボタン 1 つで、高さ寸法や屋根勾配などが入った状態まで作成されます。
また、仕上仕様を追加してみましょう。

4-1 立面図の作成

立面図を自動作成する

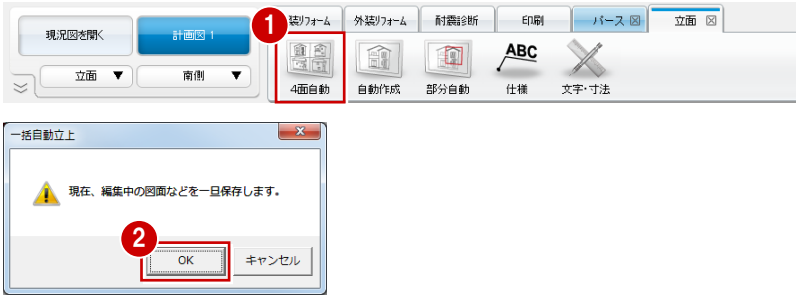
❶［図面の切り替え］から「立面」を選びます。
南側立面図が自動作成されます。

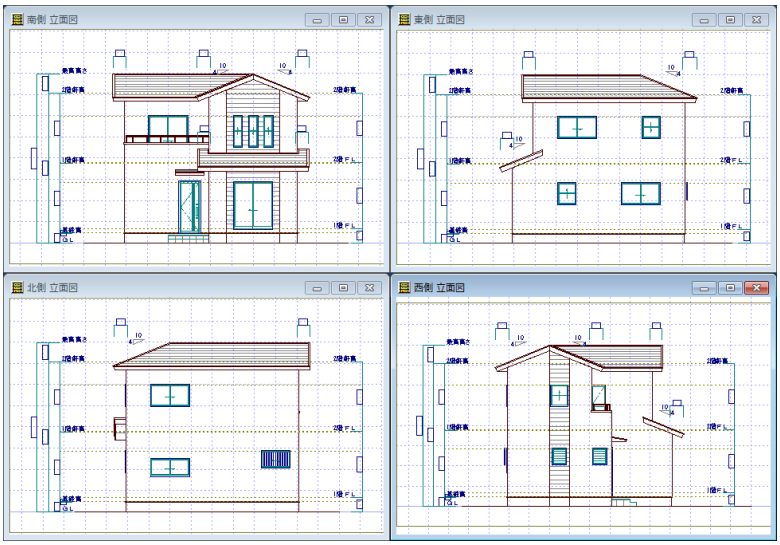


他の面を作成する

❶［4 面自動］をクリックします。

❷ 確認画面で［OK］をクリックします。
立面図 4 面が開いて、自動作成が開始されます。





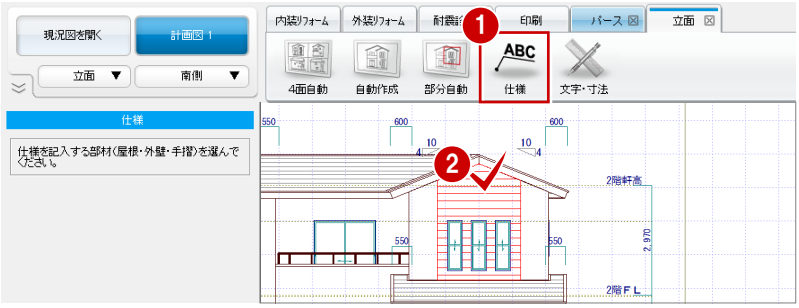
4-2 加筆修正

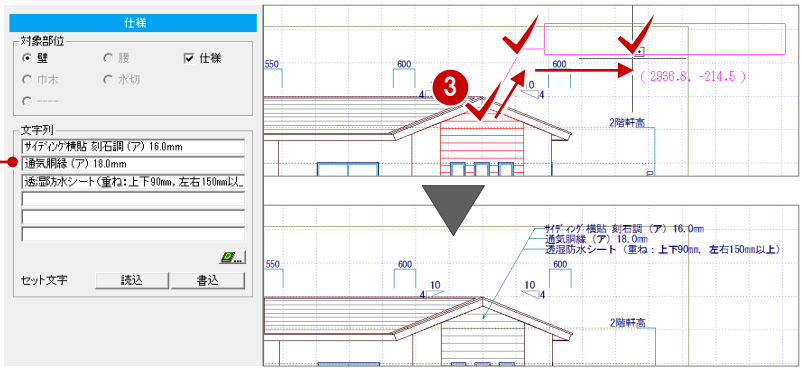
仕上仕様を入力する

❶ 南側立面図を最大化して、［仕様］をクリックします。

❷ 仕様を記入する部材（ここでは外壁仕上）をクリックします。

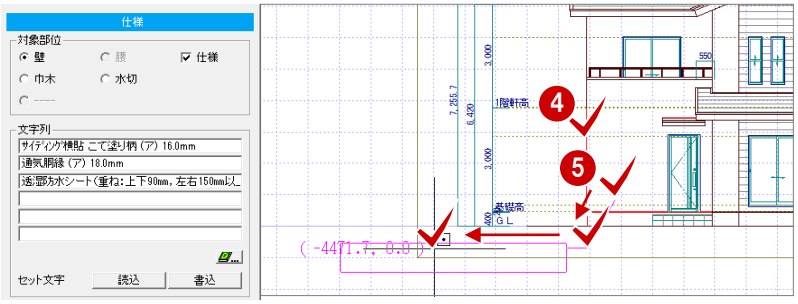
❸ 引出線の始点、終点、文字列の方向の順にクリックします。



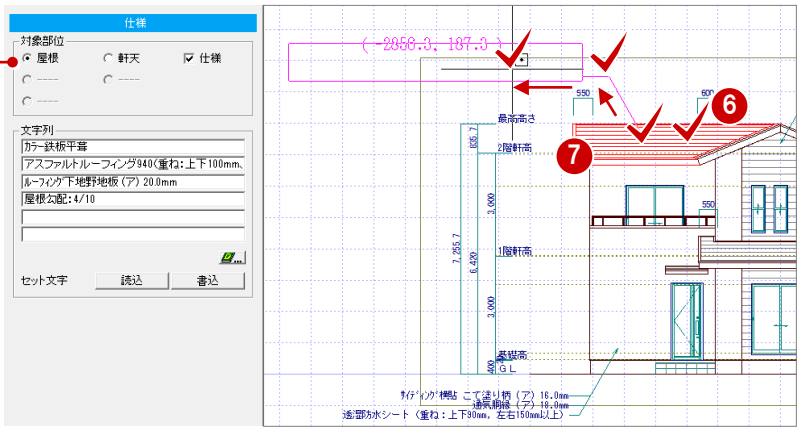


仕上仕様の名称を変更するときは、こちらの文字列を修正して仕上仕様を入力します。

❹～❼ 同様にして、他の外壁仕上や屋根にも仕上仕様の引出線を入力します。

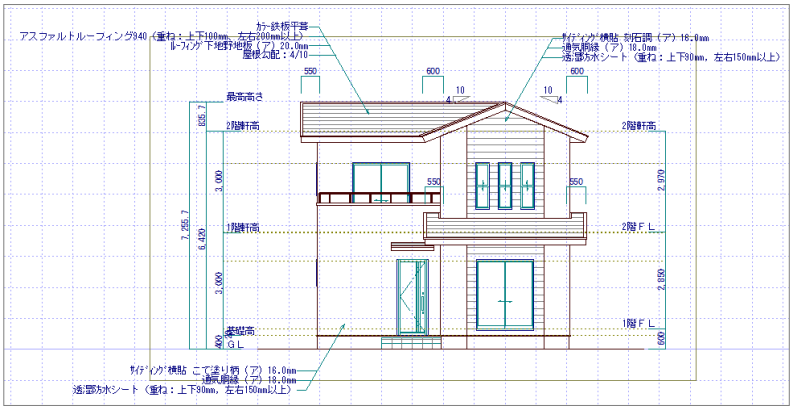


クリックしたデータに複数の部位が含まれる場合は、こちらで対象部位を選択できます。



データを保存する

フローティングバーの をクリックしてデータを保存します。



5 図面の印刷

作成した図面やパースをレイアウトしましょう。
ここでは、プレゼンボード風の図面枠を一部修正してレイアウトする流れを解説します。

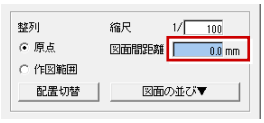
5-1 プレゼンボードの作成

図枠・図面を配置する

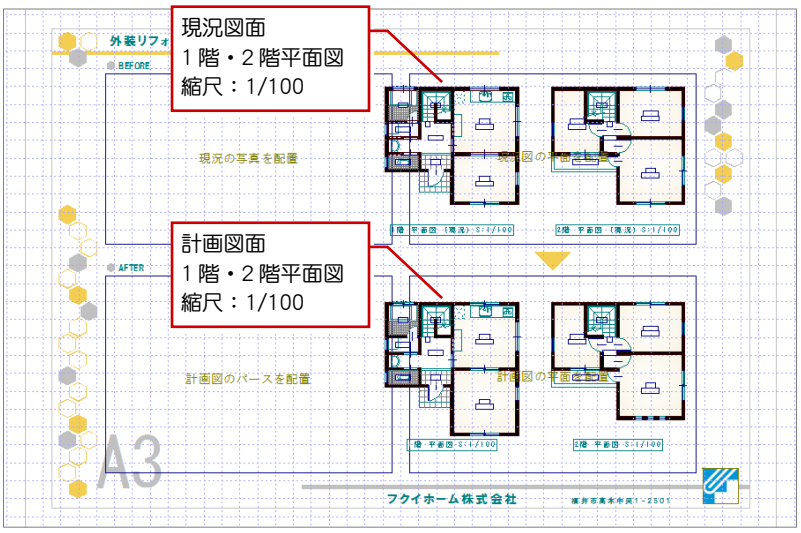
［印刷］タブの［図面］をクリックして、図枠と図面を配置します。

使用する図枠：［3：ポップ］の「A3_03」

※ 1 階・2 階平面図は、［図面間距離］を「0」に変更して配置します。

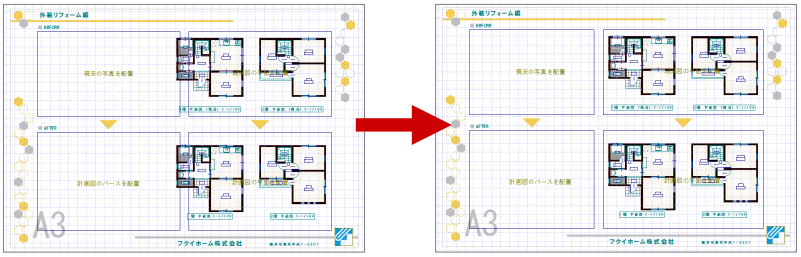


⇒ 図枠・図面の配置については、「リフォーム入門編」P.49、50 参照



枠を部分移動する

平面図が枠からはみ出しているので、枠を広げましょう。

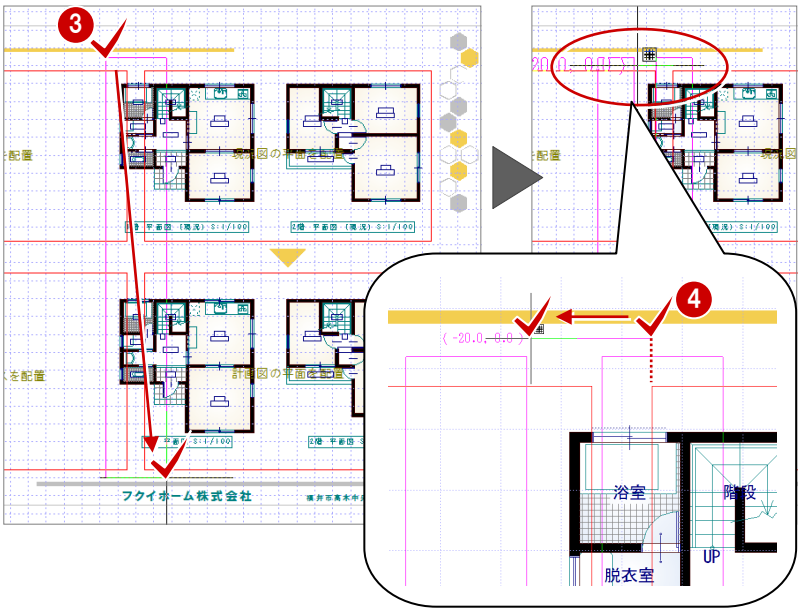


❶［文字・寸法］をクリックして、［編集］の［部分］を選びます。

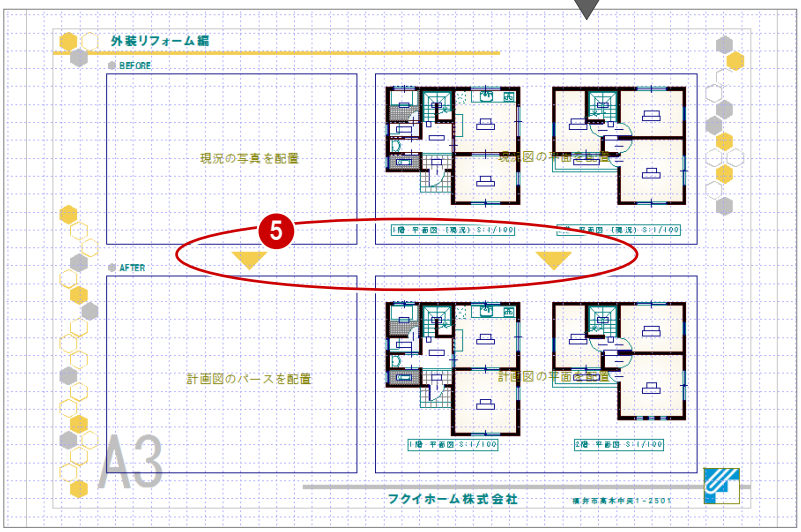
❷ Ctrl キーを押しながら枠 4 つを選択して、最後に Enter キー（またはポップアップメニューの［OK］）を押します。

❸ 写真の枠の右辺と平面図の枠の左辺を含むように範囲を指定します。

❹ 移動の基準点（平面図枠の左辺の延長上）と移動先（平面図枠の左辺の移動先）をクリックします。
平面図の枠が広がり、写真の枠が小さくなります。



❺ 黄色の▼をトラッカーで枠の中央に移動しておきましょう。



パースを配置する

［画像配置］をクリックして、右図のようにパース画像を配置します。

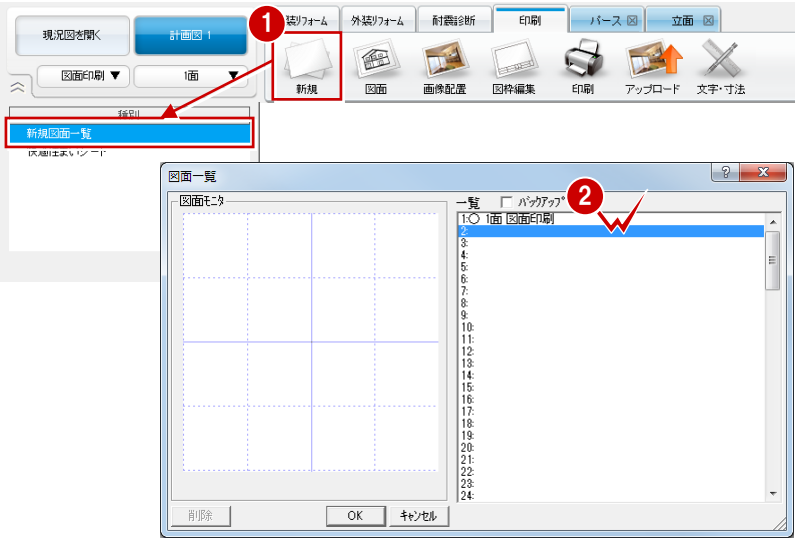
※ ここでは現況のパースを配置していますが、写真がある場合は写真を配置するとよいでしょう。

⇒ パースの配置については、「リフォーム入門編」P.51 参照

2 面目を開く

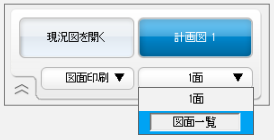
❶［新規］をクリックして、［新規図面一覧］を選びます。

❷［図面一覧］ダイアログで空いている面（ここでは 2 面）をダブルクリックします。



別の方法

［階・面の切り替え］から［図面一覧］を選んでも同様です。

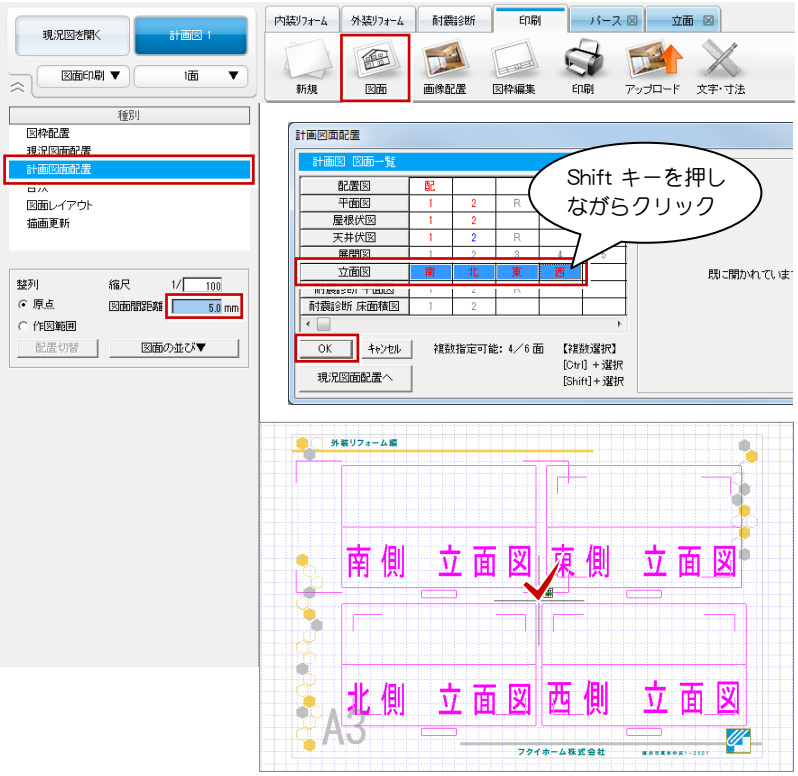


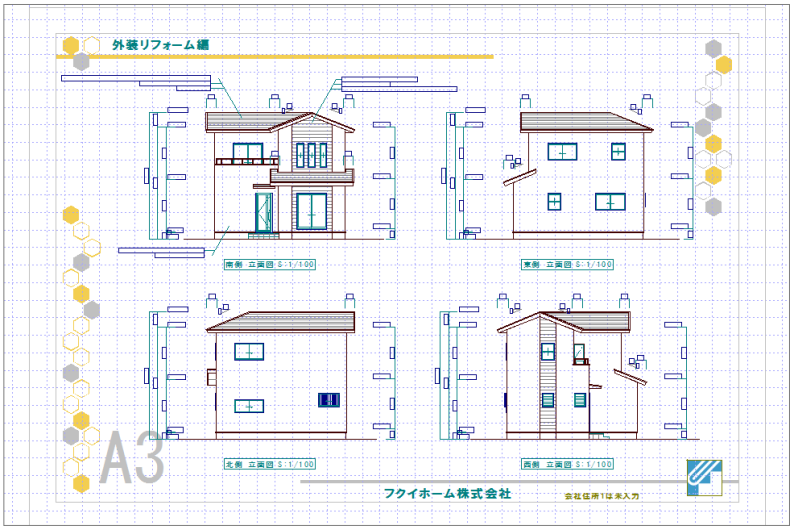
図枠・図面を配置する

1 面と同様にして、図枠と図面を配置します。

使用する図枠：［3：ポップ］の「A3_05」

※ 立面図は、［図面間距離］を「5」に変更して配置します。





作図範囲外のデータを表示する

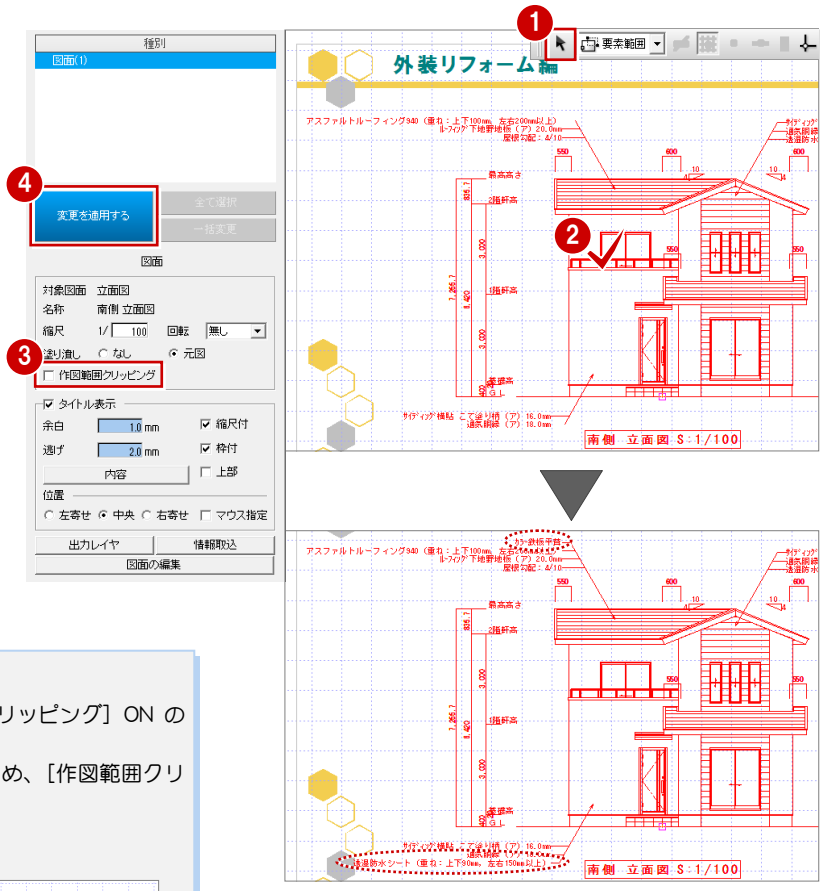
立面図の仕上仕様の引出線がすべて表示されていない場合は、次のように操作します。

❶❷ 南側立面図を選択します。

❸［作図範囲クリッピング］を OFF にします。

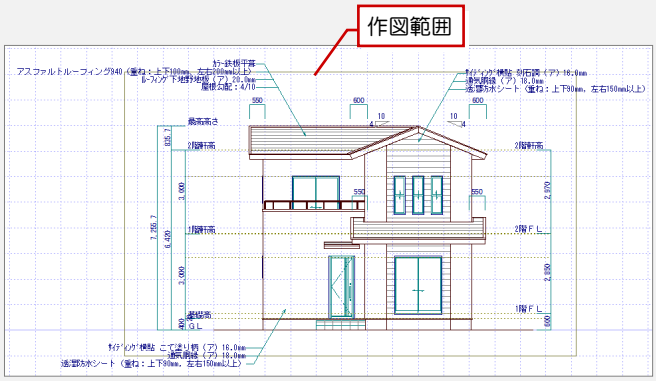
❹［変更を適用する］をクリックします。
作図範囲の外側にあるデータもすべて表示されます。

⇒ 図面のプロパティについては、「リフォーム入門編」P.54 参照



作図範囲クリッピング

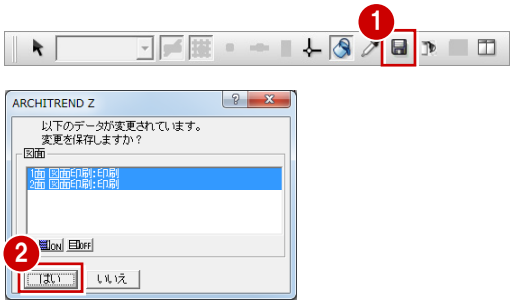
文字列は、基準点が作図範囲外にあると［作図範囲クリッピング］ON の場合に表示されません。
ここでは、引出線の文字列が一部作図範囲外にあるため、［作図範囲クリッピング］を OFF にしてすべてを表示させています。



データを保存する

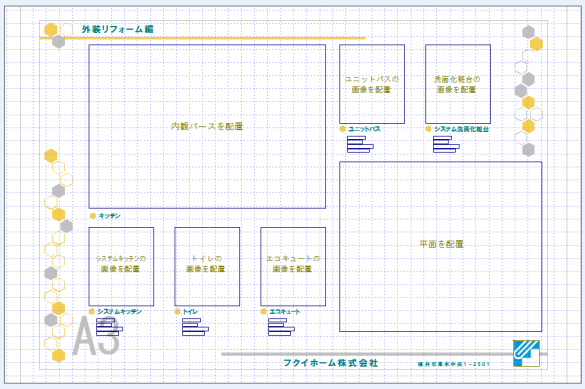
❶ フローティングバーの をクリックします。

❷ 確認画面で［はい］をクリックします。

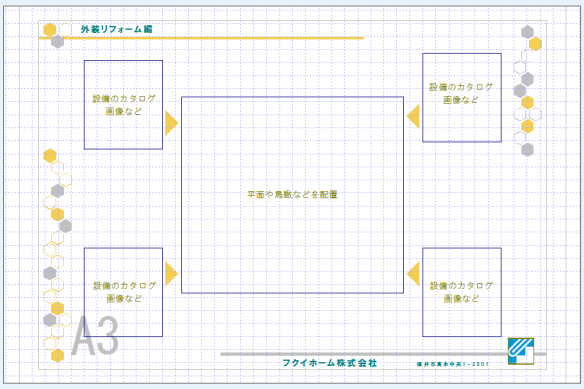


テクスチャ・設備のプレゼンボード

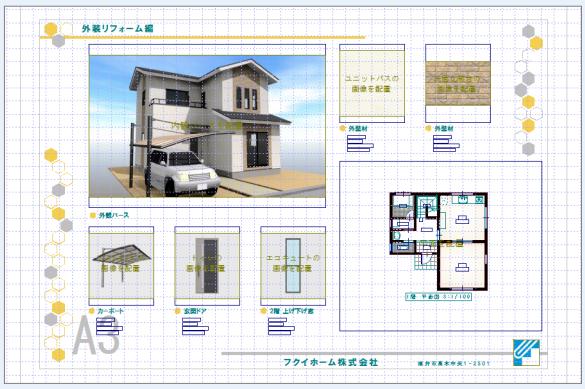
［3：ポップ］の「A3_02」や「A3_04」の図枠を使うと、テクスチャや設備のプレゼンボードが作成できます。
建材メーカーのホームページなどからダウンロードした画像をレイアウトしましょう。

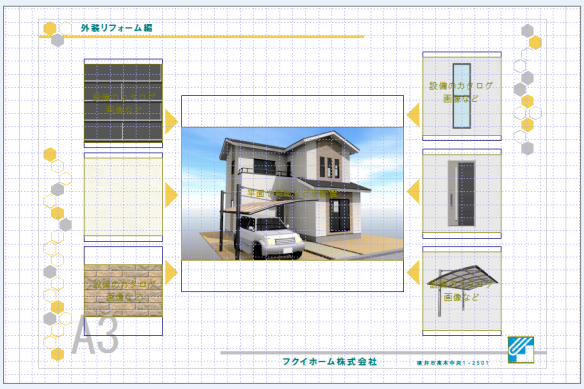
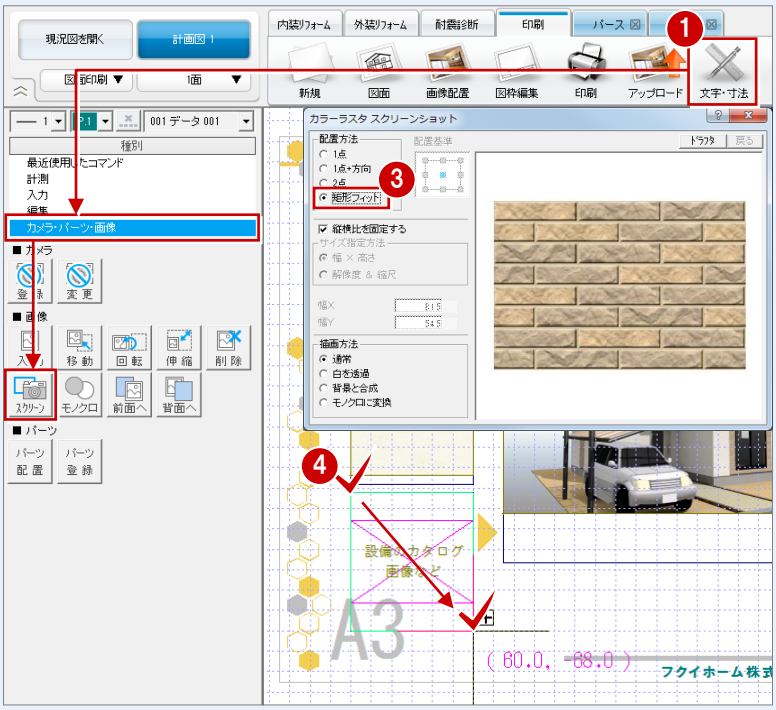


【A3_02】



【A3_04】





※ 上図のテクスチャや設備の画像は、［文字・寸法］の［カメラ・パーツ・画像］の［スクリーン］を使用して配置しています。
あらかじめ建材メーカーのホームページなどを表示しておき、取り込みたい範囲を指定すると、画像として配置できます。